

令和5年度
高山市まちづくりアンケート調査（団体）
—報告書—

令和5年12月

高山市

目次

第1章 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の期間	1
3 調査の項目	1
4 調査の方法	1
5 回収結果	1
6 標本の構成	2
7 その他	3

第2章 調査結果の分析

1 団体の活動について

1 活動に関し困っていること	4
2 活動を充実する上での支援策	5
3 他の組織との連携	6
4 協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策	9

2 今後、高山市が取り組むべき重要課題について

1 今後の重要課題	10
-----------	----

3 高山市総合計画について

1 総合計画の認知度	12
2 総合計画の理解度	13
3 計画の共有（わかりやすい計画）	14

4 市民によるまちづくりについて

1 市民によるまちづくりの考え方	15
2 まちづくりの基本的なルール策定による効果	16
3 市民の役割	17
4 行政の役割	18
5 市民の思いが市政やまちづくりに効果的に反映される手段・方法	19

5 将来に向けた高山市のまちづくりへのご意見など

自由記述	20
------	----

第1章 調査の概要

1 調査の目的

高山市第八次総合計画の見直しにあたり、各種団体における意識の把握・分析を行い、今後の政策立案の参考とする。

2 調査の期間

令和5年6月28日～8月12日

(※前回調査 平成30年5月30日～6月25日)

3 調査の項目

○団体の活動について

- ・活動に関し困っていること
- ・活動を充実する上での支援策
- ・他の組織との連携
- ・協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策

○今後、高山市が取り組むべき重要課題について

- ・今後の重要課題

○高山市総合計画について

- ・計画の認知度・理解度
- ・計画の共有（わかりやすい計画）

○市民によるまちづくりについて

- ・市民によるまちづくりの考え方
- ・まちづくりの基本的なルール策定による効果
- ・市民・行政の役割
- ・市民の思いが市政やまちづくりに効果的に反映される手段・方法

○将来に向けた高山市のまちづくりへのご意見など（自由記述）

4 調査の方法

調査地域 高山市内全地域

調査対象 市内に事務所等を有する団体 370団体

（まちづくり協議会、地区町内会、市民活動登録団体、福祉関係団体 など）

実施方法 郵送による配布、郵送・インターネットによる回答、記名式

5 回収結果

発送数 370団体

回収数 202団体

回収率 54.6%

6 標本の構成

		回答数 (件)	構成比 (%)
主な活動地域 (複数回答)	高山市全域	66	23.0
	高山地域内	58	20.2
	丹生川地域内	11	3.8
	清見地域内	10	3.5
	荘川地域内	12	4.2
	一之宮地域内	13	4.5
	久々野地域内	10	3.5
	朝日地域内	11	3.8
	高根地域内	6	2.1
	国府地域内	15	5.2
	上宝・奥飛騨温泉郷地域内	11	3.8
	高山市及び周辺	28	9.8
	岐阜県内	13	4.5
	その他(※1)	22	7.7
	無回答	1	0.3
主な活動内容 (複数回答)	町内会活動	50	8.1
	保健、医療又は福祉の増進を図る活動	43	6.9
	社会教育の推進を図る活動	45	7.3
	まちづくりの推進を図る活動	68	11.0
	環境の保全を図る活動	59	9.5
	災害救援活動	30	4.8
	地域安全活動	41	6.6
	人権の擁護又は平和の推進を図る活動	13	2.1
	国際協力の活動	11	1.8
	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	9	1.5
	子どもの健全育成を図る活動	78	12.6
	情報化社会の発展を図る活動	9	1.5
	学術・文化・スポーツの振興を図る活動	55	8.9
	科学技術の振興を図る活動	3	0.5
	経済活動の活性化を図る活動	28	4.5
	職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	7	1.1
	消費者の保護を図る活動	3	0.5
	市民活動団体を支援する活動	27	4.4
その他(※2)	35	5.7	
無回答	5	0.8	

		回答数 (件)	構成比 (%)
活動年数	1年未満	4	2.0
	1年以上～3年未満	12	5.9
	3年以上～5年未満	9	4.5
	5年以上～10年未満	29	14.4
	10年以上	137	67.8
	不明	8	4.0
	無回答	3	1.5
会員数	10人未満	31	15.3
	10人以上～30人未満	66	32.7
	30人以上～50人未満	19	9.4
	50人以上～100人未満	27	13.4
	100人以上	53	26.2
	不明	4	2.0
	無回答	2	1.0

「その他」の内容

※1 「全国」、「県外」 など

※2 「歴史文化保存」、「観光振興」 など

7 その他

この報告書における「回答率」は、次の計算式により算出している。

$$\text{回答率} = \text{回答数} / \text{標本数}$$

回答率は百分率(%)で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が必ずしも100%とならない。また、2つ以上の回答を求めたものについての合計値は100%を超える。

第2章 調査結果の分析

1 団体の活動について

1 活動に関し困っていること

- ・「会員が減少・不足している」の割合が最も高く、回答した半分以上の団体が選択している。
- ・前回（H30）の調査結果に比べ1位の順位は同じであるが、割合が大きく上昇している。また、「活動資金が不足している」の順位・割合が上昇している。
- ・前回（H30）の調査結果に比べ「市民等に十分活動が認知されていない」の順位・割合が低下している。

問1 貴団体の活動に関し、現在どのようなことに困っていますか。（2つまで○印）

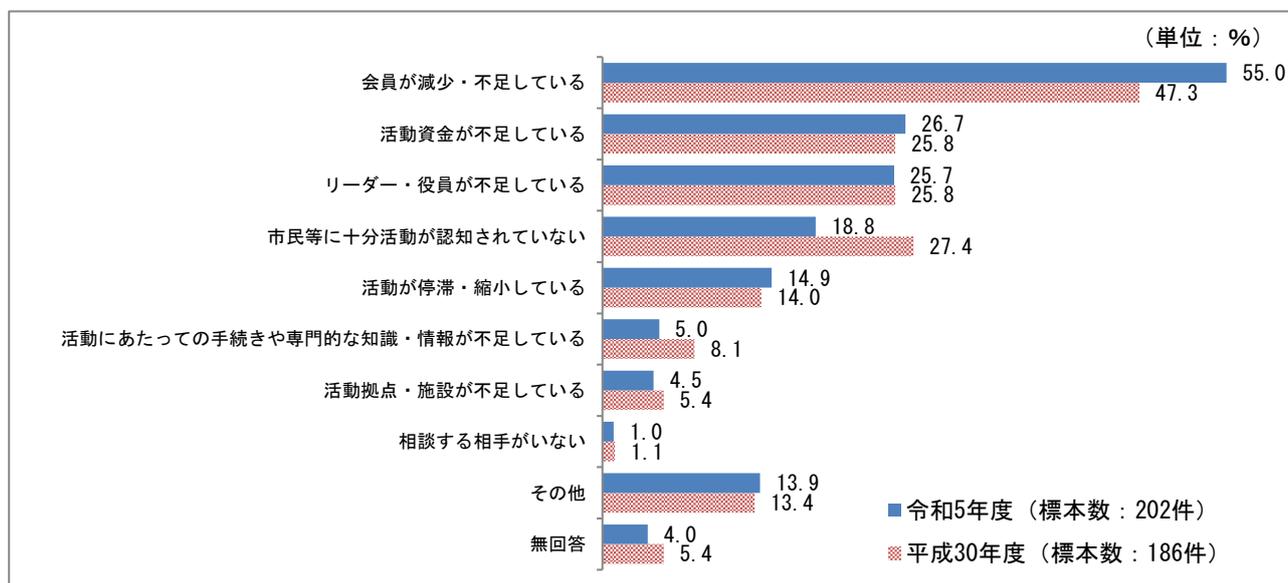
順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回（H30）	
				順位	回答率(%)
1	会員が減少・不足している	111	55.0	1	47.3
2	活動資金が不足している	54	26.7	3	25.8
3	リーダー・役員が不足している	52	25.7	3	25.8
4	市民等に十分活動が認知されていない	38	18.8	2	27.2
5	活動が停滞・縮小している	30	14.9	5	14.0
6	活動にあたっての手続きや専門的な知識・情報が不足している	10	5.0	6	8.1
7	活動拠点・施設が不足している	9	4.5	7	5.4
8	相談する相手がいない	2	1.0	8	1.1
	その他	28	13.9		13.4
	無回答	8	4.0		5.4
計		323			

(標本数：202件)

(標本数：186件)

※「その他」の内容

- ・「会員の高齢化」、「人材の確保」 など



2 活動を充実する上での支援策

- ・「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援」の割合が最も高く、次いで「市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援」、「活動に役立つ情報提供や学習・研修などの支援」が高い。
- ・順位については、前回（H30）と比較すると、1位と2位は同じである。

問2 貴団体の活動を充実する上で、行政にどのような支援を望みますか。（2つまで○印）

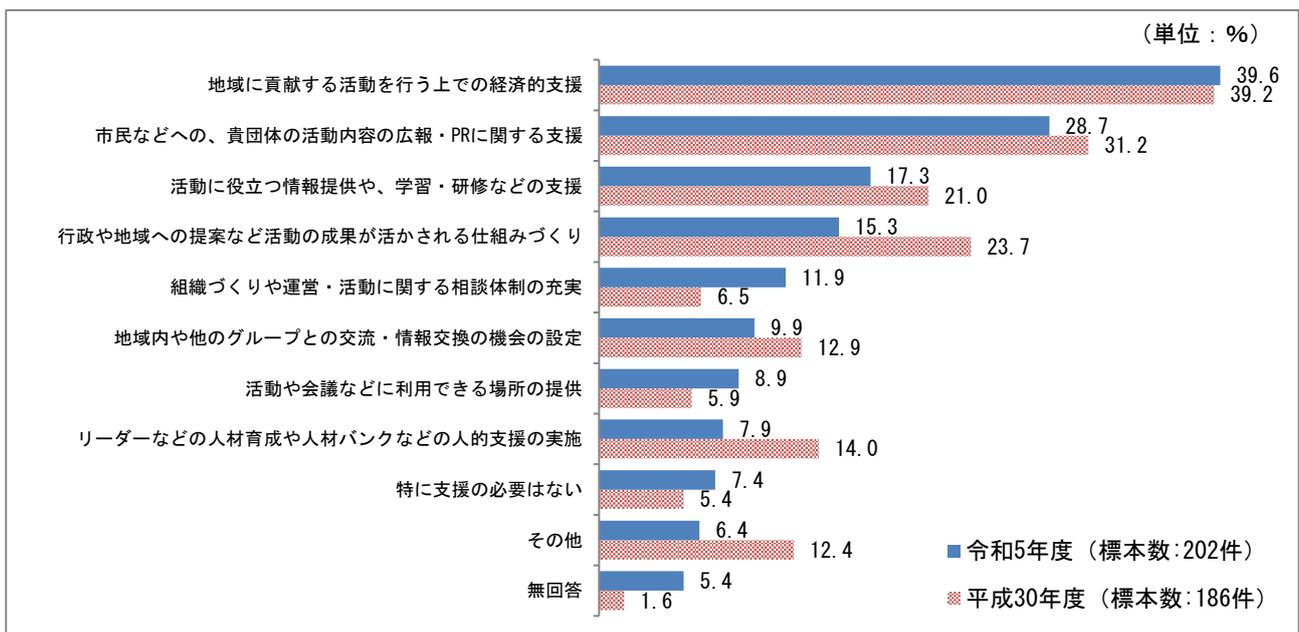
順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回 (H30)	
				順位	回答率 (%)
1	地域に貢献する活動を行う上での経済的支援	80	39.6	1	39.2
2	市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援	58	28.7	2	31.2
3	活動に役立つ情報提供や、学習・研修などの支援	35	17.3	4	21.0
4	行政や地域への提案など活動の成果が活かされる仕組みづくり	31	15.3	3	23.7
5	組織づくりや運営・活動に関する相談体制の充実	24	11.9	7	6.5
6	地域内や他のグループとの交流・情報交換の機会の設定	20	9.9	6	12.9
7	活動や会議などに利用できる場所の提供	18	8.9	8	5.9
8	リーダーなどの人材育成や人材バンクなどの人的支援の実施	16	7.9	5	14.0
9	特に支援の必要はない	15	7.4	9	5.4
	その他	13	6.4		12.4
	無回答	11	5.4		1.6
	計	321			

(標本数：202件)

(標本数：186件)

※「その他」の内容

- ・「人材確保のサポート」、「行政への要望事項の実施」 など



3 他の組織との連携

【A】現在の連携の状況

- ・「よくある」と「たまにある」を合わせた割合が最も高いのが、「行政との連携」(67.8%)である。
- ・前回(H30)の調査結果と比較すると、「よくある」と「たまにある」を合わせた割合は、いずれも低下している。特に「同様の活動をしている他の団体との連携」が最も低下している。

【B】今後の連携の必要性

- ・「必要」の割合は、「行政との連携」が最も高く、「企業との連携」が最も低い。

問3 貴団体は、次の各項目の組織等と連携して活動することが、【A】現在どれくらいありますか。また、【B】今後連携が必要だとお考えですか。(あてはまる番号にそれぞれ1つに○印)

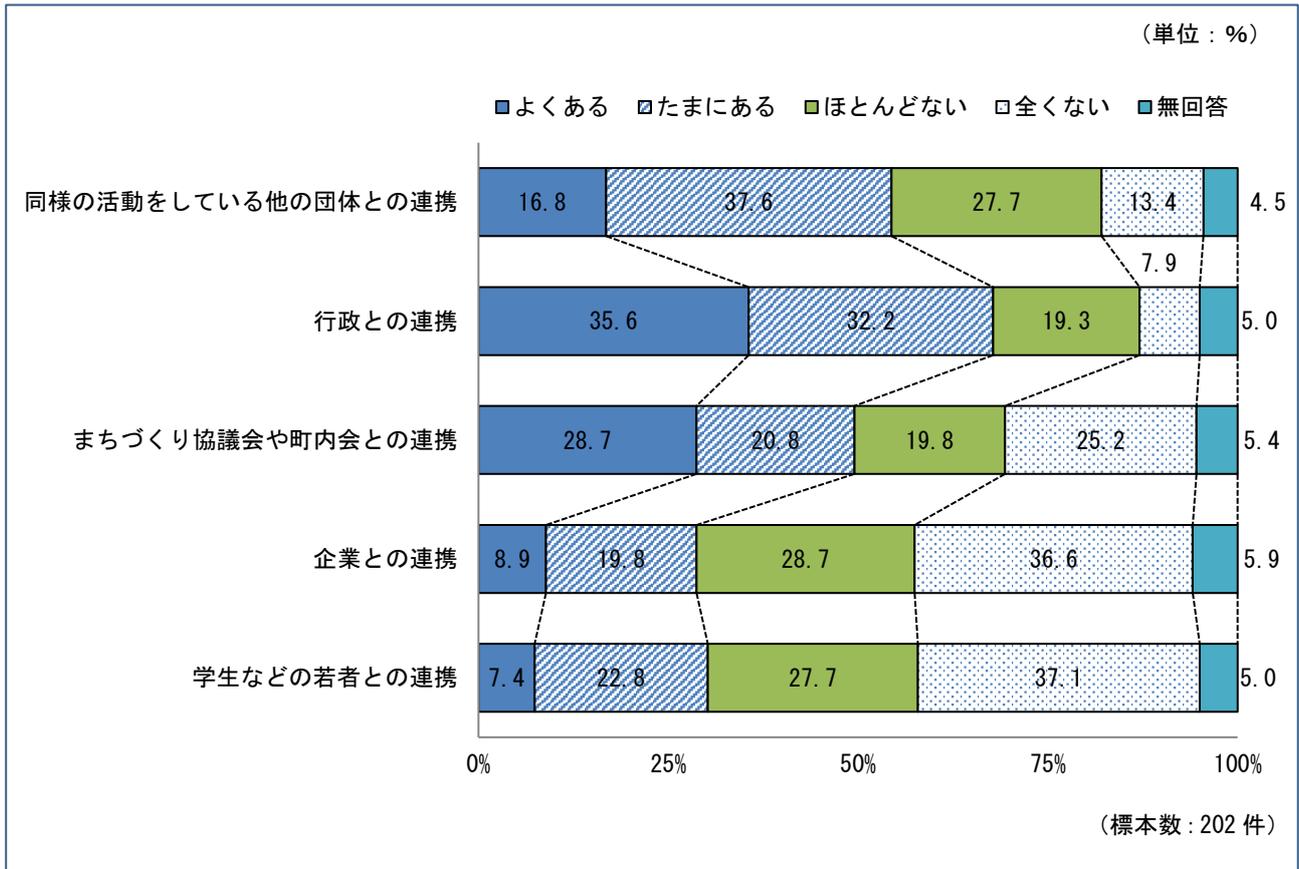
	【A】 現在の連携 の状況	回答数 (件)	回答率 (%)	前回(H30)	【B】 今後の連携 の必要性	回答数 (件)	回答率 (%)	前回(H30)
				回答率(%)				回答率(%)
同様の活動をして いる他の団体との 連携	よくある	34	16.8	30.1	必要	131	64.9	70.4
	たまにある	76	37.6	37.1	必要でない	8	4.0	2.2
	ほとんどない	56	27.7	15.1	どちらともいえない	40	19.8	18.3
	全くない	27	13.4	11.8	わからない	10	5.0	2.2
	無回答	9	4.5	5.9	無回答	13	6.4	7.0
行政との連携	よくある	72	35.6	43.0	必要	157	77.7	86.6
	たまにある	65	32.2	34.9	必要でない	7	3.5	0.5
	ほとんどない	39	19.3	14.0	どちらともいえない	20	9.9	4.8
	全くない	16	7.9	3.8	わからない	8	4.0	2.2
	無回答	10	5.0	4.3	無回答	10	5.0	5.9
まちづくり協 議会や町内会 との連携	よくある	58	28.7	24.7	必要	121	59.9	74.2
	たまにある	42	20.8	34.4	必要でない	8	4.0	2.7
	ほとんどない	40	19.8	17.7	どちらともいえない	44	21.8	12.9
	全くない	51	25.2	17.7	わからない	16	7.9	4.3
	無回答	11	5.4	5.4	無回答	13	6.4	5.9
企業との連携	よくある	18	8.9	7.5	必要	83	41.1	47.8
	たまにある	40	19.8	23.7	必要でない	16	7.9	5.9
	ほとんどない	58	28.7	28.0	どちらともいえない	64	31.7	31.7
	全くない	74	36.6	32.8	わからない	25	12.4	4.3
	未回答	12	5.9	8.1	無回答	14	6.9	10.2
学生などの若 者との連携	よくある	15	7.4	10.2	必要	110	54.5	61.8
	たまにある	46	22.8	22.6	必要でない	10	5.0	2.2
	ほとんどない	56	27.7	28.0	どちらともいえない	51	25.2	21.0
	全くない	75	37.1	31.2	わからない	17	8.4	6.5
	無回答	10	5.0	8.1	無回答	14	6.9	8.6

(令和5年度 標本数: 202件)

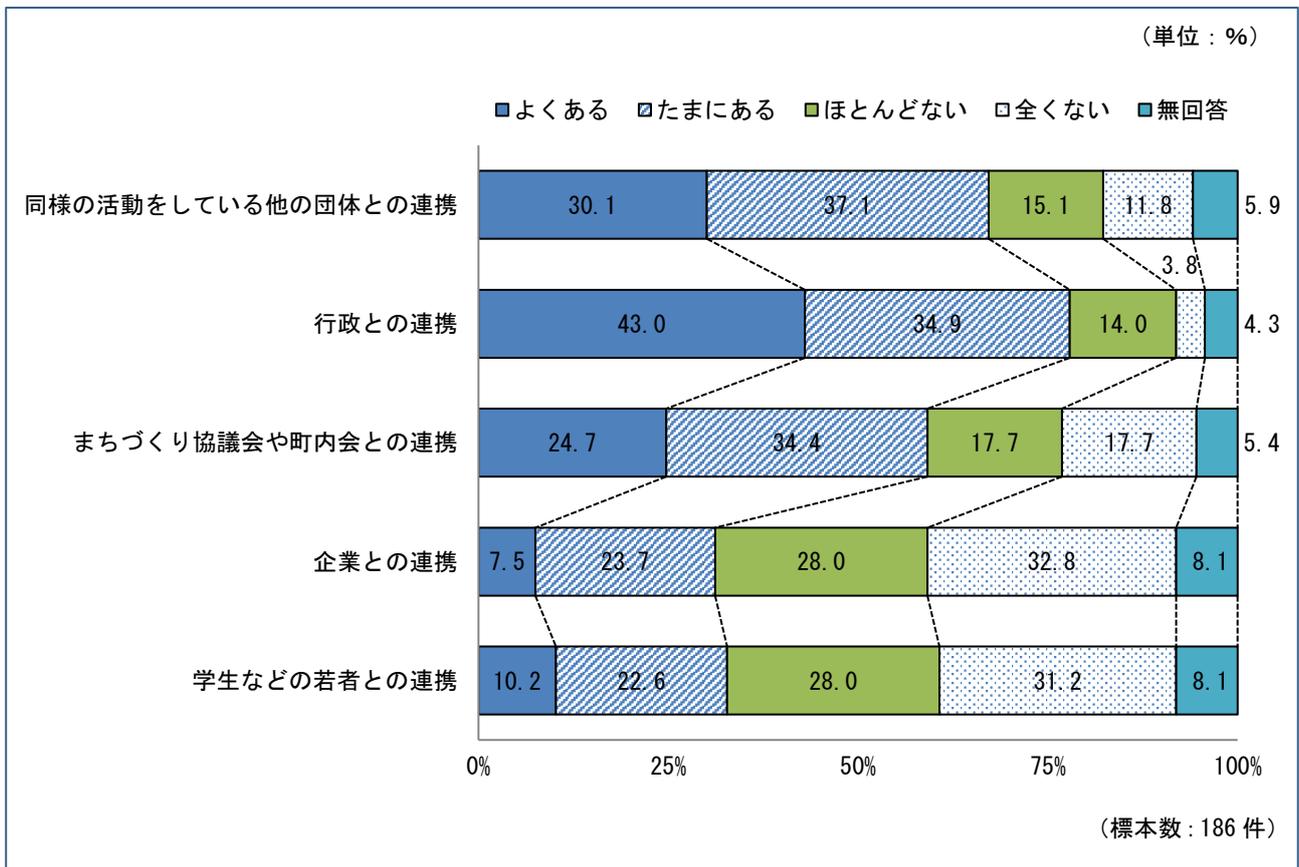
(平成30年度 標本数: 186件)

【A】現在の連携の状況

(令和5年度)

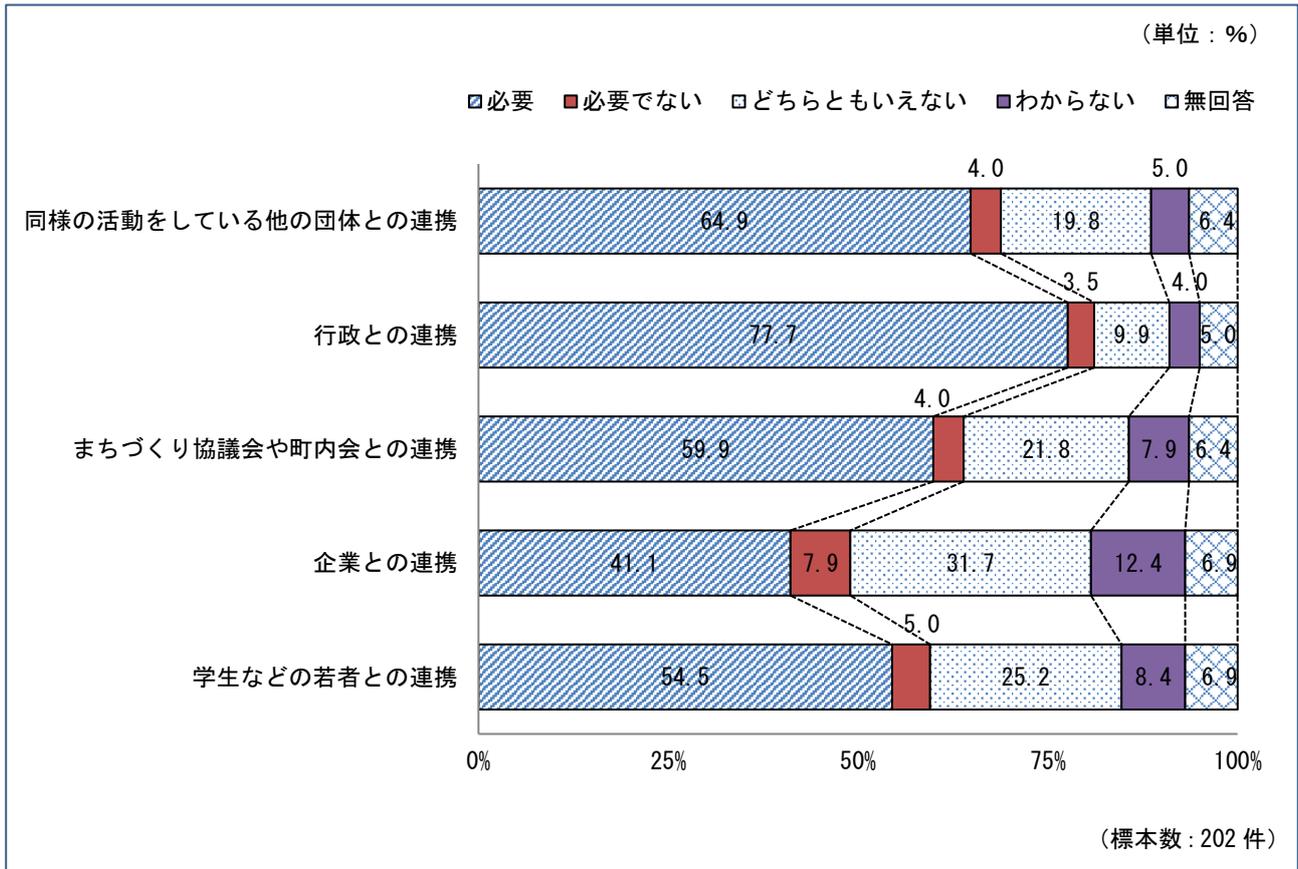


(平成30年度)

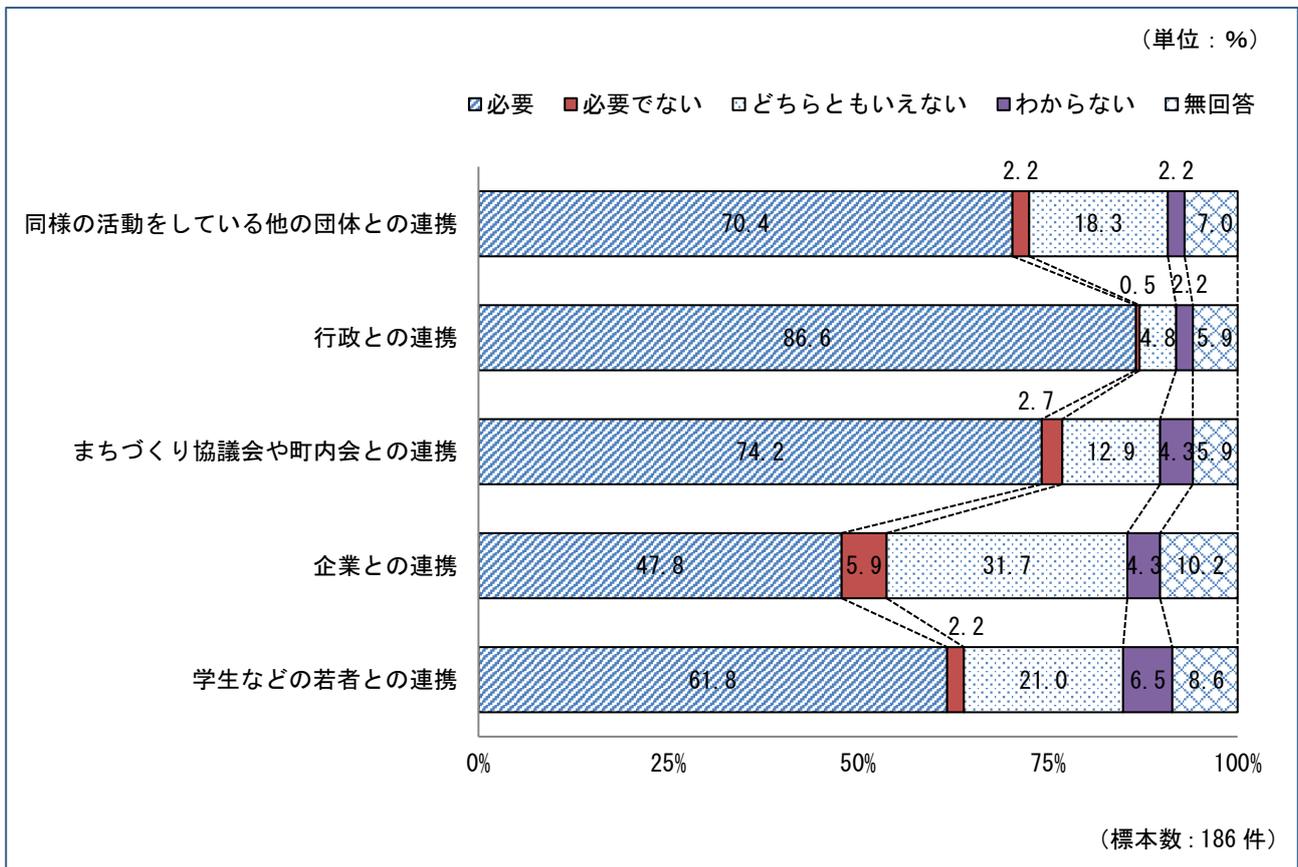


【B】今後の連携の必要性

(令和5年度)



(平成30年度)



4 協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策

- ・「地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で施策や事業を展開する」の割合が、最も高い。
- ・前回（H30）の調査結果に比べ「行政だけ、市民だけでは解決できない課題を解決する」、「市民の役割、行政の役割を明確にし、それぞれが必要な役割を果たす」、「市民が自立して解決できるよう行政の支援を充実する」の割合が上昇している。

問4 市民と行政が協働してまちづくりをすすめる上で、何が最も重要とお考えですか。
（2つまで○印）

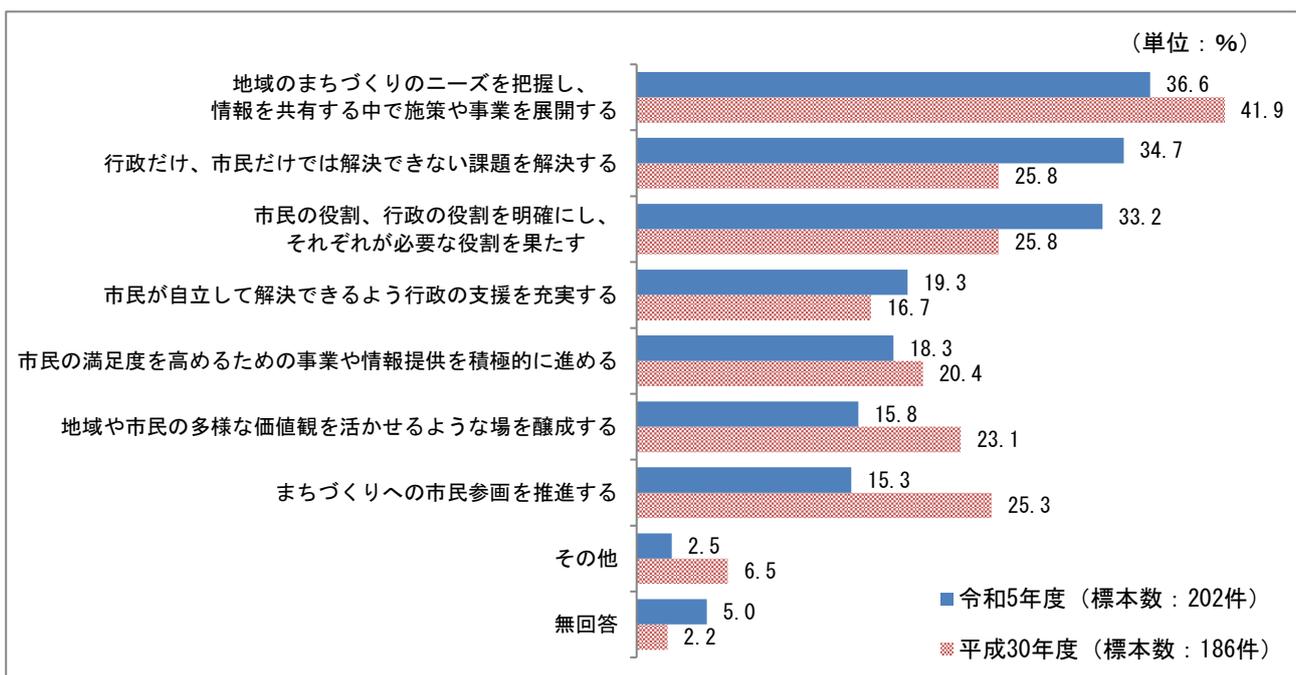
順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回 (H30)	
				順位	回答率 (%)
1	地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で施策や事業を展開する	74	36.6	1	41.9
2	行政だけ、市民だけでは解決できない課題を解決する	70	34.7	2	25.8
3	市民の役割、行政の役割を明確にし、それぞれが必要な役割を果たす	67	33.2	2	25.8
4	市民が自立して解決できるよう行政の支援を充実する	39	19.3	7	16.7
5	市民の満足度を高めるための事業や情報提供を積極的に進める	37	18.3	6	20.4
6	地域や市民の多様な価値観を活かせるような場を醸成する	32	15.8	5	23.1
7	まちづくりへの市民参画を推進する	31	15.3	4	25.3
	その他	5	2.5		6.5
	無回答	10	5		2.2
計		365			

(標本数: 202 件)

(標本数: 186 件)

※「その他」の内容

- ・「地域の特性を理解した職員の育成と適切な配置」、「誰もが参加しやすいまちづくり」など



2 今後、高山市が取り組むべき重要課題について

1 今後の重要課題

- ・「人口減少への対応」の割合が最も高く、次いで、「少子化対策」、「医療・福祉サービスの確保」となっている。
- ・前回（H30）の調査結果と比較すると、順位については、1位と2位は同じである。
- ・前回（H30）の調査結果と比較すると、「医療・福祉サービスの確保」の割合が大きく上昇しており、順位も高くなっている。一方で、「急激な高齢者の増加への対応」の割合が大きく低下しており、順位も下がっている。

問5 今後、高山市がどのようなことに重点的に取り組むべきだとお考えですか。（3つまで○印）

順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回（H30）	
				順位	回答率(%)
1	人口減少への対応	78	38.6	1	35.5
2	少子化対策（妊娠、出産への支援、子育てしやすい環境づくり）	74	36.6	2	32.8
3	医療・福祉サービスの確保	50	24.8	7	14.5
4	地域経済の活性化	45	22.3	5	22.6
5	地域力の向上や魅力ある地域づくり	44	21.8	4	23.1
6	急激な高齢者の増加への対応	37	18.3	3	30.6
	雇用の場の創出	37	18.3	6	21.5
8	学校教育や生涯学習の充実	30	14.9	8	12.9
9	地震や豪雨災害などへの備え	29	14.4	11	10.2
10	郷土への誇り・愛着の醸成	22	10.9	15	6.5
11	自然環境の保全	21	10.4	10	11.8
	伝統文化の保存・活用	21	10.4	12	8.6
13	農林畜産業の振興	17	8.4	13	8.1
14	観光の振興（魅力ある観光地づくり、誘客促進）	13	6.4	13	8.1
15	安全安心の確保（消防、防犯、交通安全）	12	5.9	9	12.4
16	海外戦略（外国人観光客の誘致、地元産品の販路拡大、国際交流）	9	4.5	20	3.8
17	自然エネルギーへの転換	8	4.0	17	5.9
	道路環境の整備や公共交通の充実	8	4.0	19	4.3
19	効率的で持続可能な行財政運営の推進	7	3.5	15	6.5
20	文化芸術の振興	5	2.5	18	4.8
	その他	16	7.9		9.7
	無回答	4	2.0		1.6
計		587			

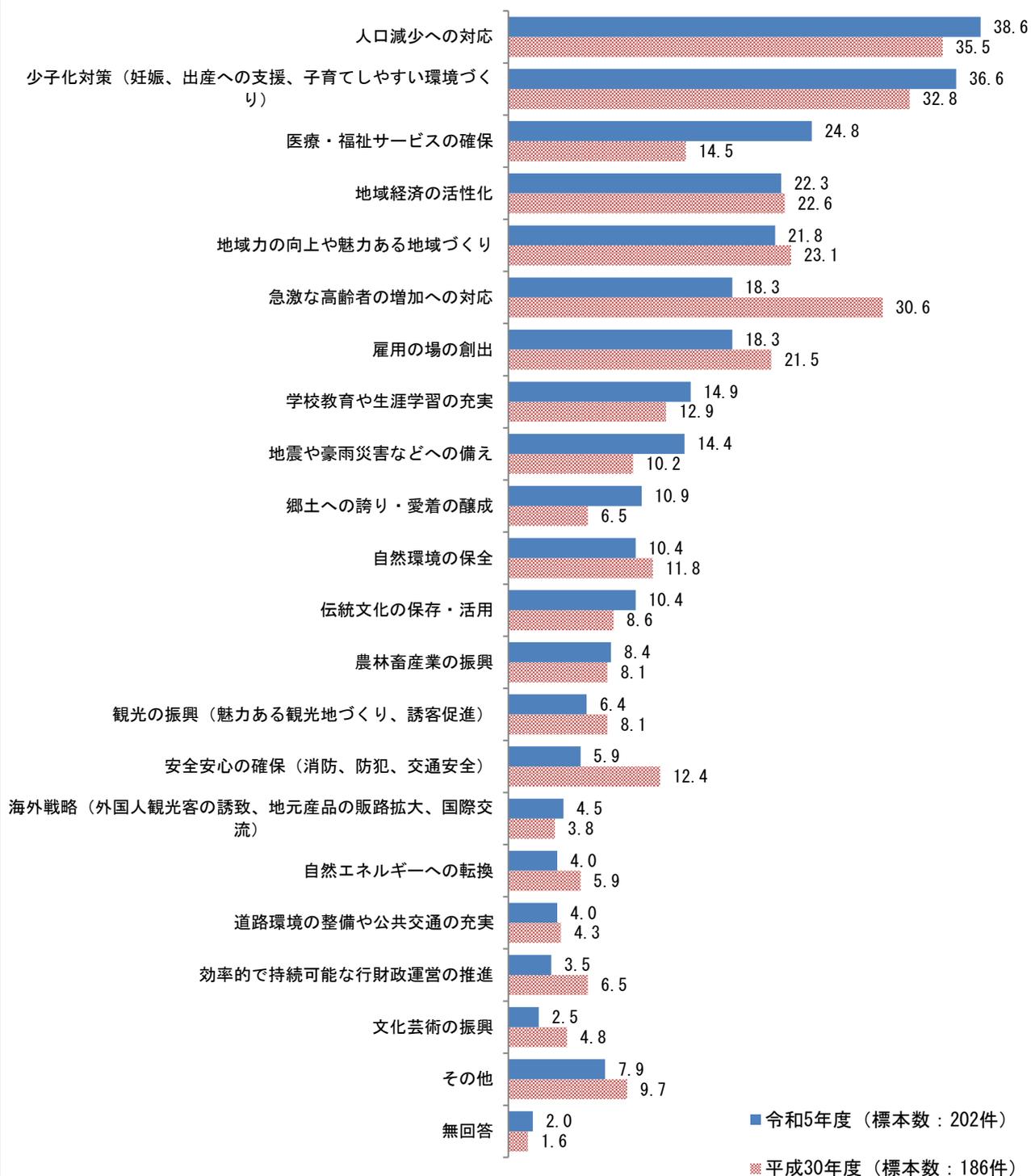
（標本数：202 件）

（標本数：186 件）

※「その他」の内容

- ・「在住外国人への支援」、「若者の定住促進」 など

(単位：%)



3 高山市総合計画について

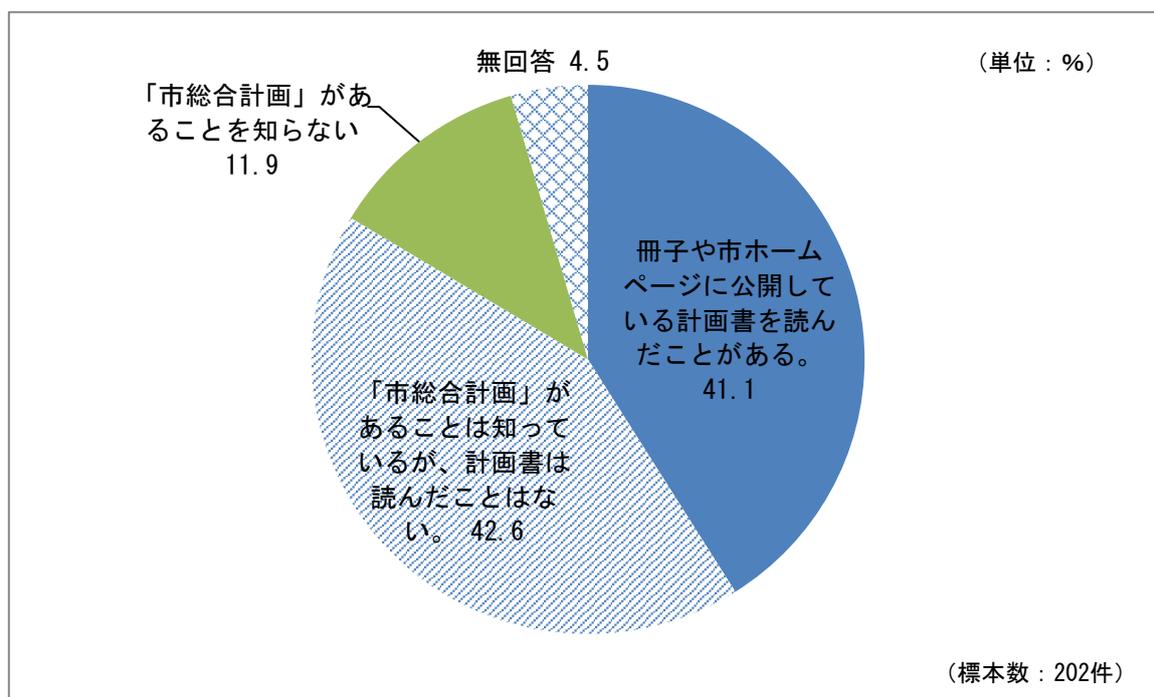
1 総合計画の認知度

- ・「市総合計画」があることは知っているが、計画書は読んだことはない」の割合が最も高い。
- ・「冊子や市ホームページに公開している計画書を読んだことがある」と「市総合計画」があることは知っているが、計画書は読んだことはない」を合わせると 83.7%を占めている。

問6 「高山市第八次総合計画」（以下「市総合計画」という）を知っていますか。（1つに○印）

	回答数 (件)	回答率 (%)
冊子や市ホームページに公開している計画書を読んだことがある	83	41.1
「市総合計画」があることは知っているが、計画書は読んだことはない	86	42.6
「市総合計画」があることを知らない	24	11.9
無回答	9	4.5
計	202	

(標本数：202件)



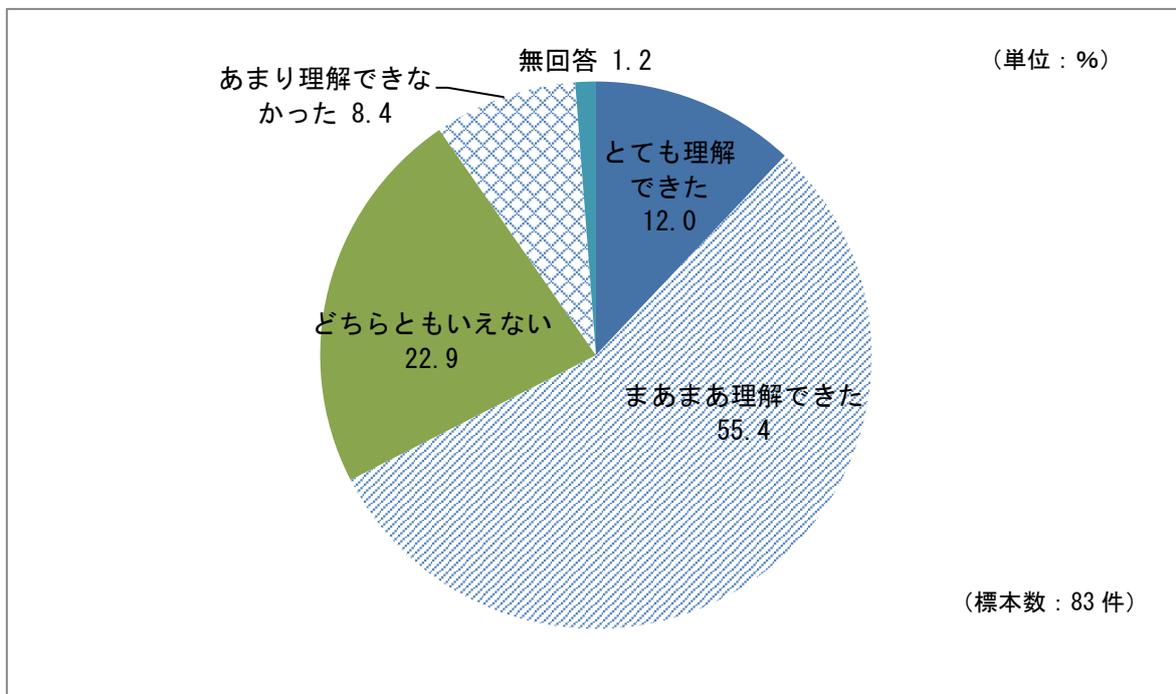
2 総合計画の理解度

・「まあまあ理解できた」の割合が最も高く、「とても理解できた」と「まあまあ理解できた」を合わせると67.4%を占めている。

問6-2 問6で、「冊子や市ホームページに公開している計画書を読んだことがある」に○をつけた方に伺います。「市総合計画」の内容を理解できましたか。(1つに○印)

	回答数 (件)	回答率 (%)
とても理解できた	10	12.0
まあまあ理解できた	46	55.4
どちらともいえない	19	22.9
あまり理解できなかった	7	8.4
ほとんど理解できなかった	0	0.0
無回答	1	1.2
計	83	

(標本数：83件)



3 計画の共有（わかりやすい計画）

・「パンフレットのようにページ数が少なく一目で全体がわかるもの」が最も高い割合となっており、次いで、「イラストなどが多く使用され、イメージが湧きやすい内容のもの」の割合が高い。

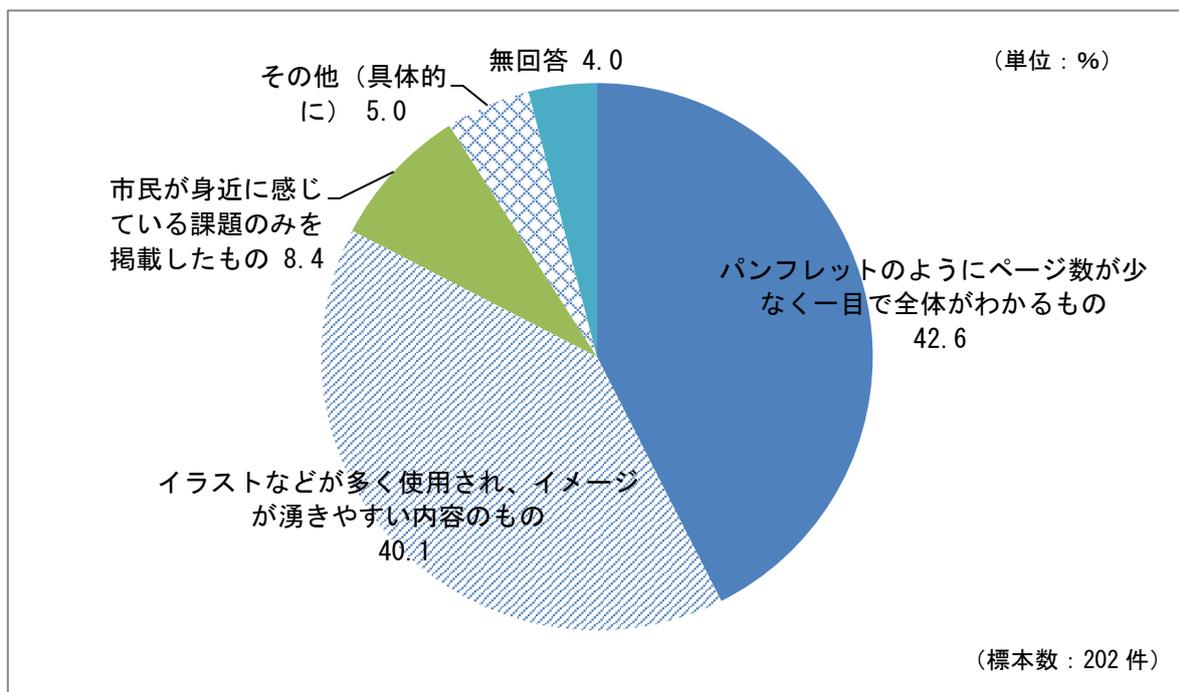
問7 「市総合計画」がどのようなかたちであれば誰にでもわかりやすく読みやすい計画になると思いますか。（1つに○印）

	回答数 (件)	回答率 (%)
パンフレットのようにページ数が少なく一目で全体がわかるもの	86	42.6
イラストなどが多く使用され、イメージが湧きやすい内容のもの	81	40.1
市民が身近に感じている課題のみを掲載したもの	17	8.4
その他（具体的に）	10	5.0
無回答	8	4.0
計	202	

（標本数：202件）

※「その他」の内容

- ・「広報に掲載する等全戸配布する」 など



4 市民によるまちづくりについて

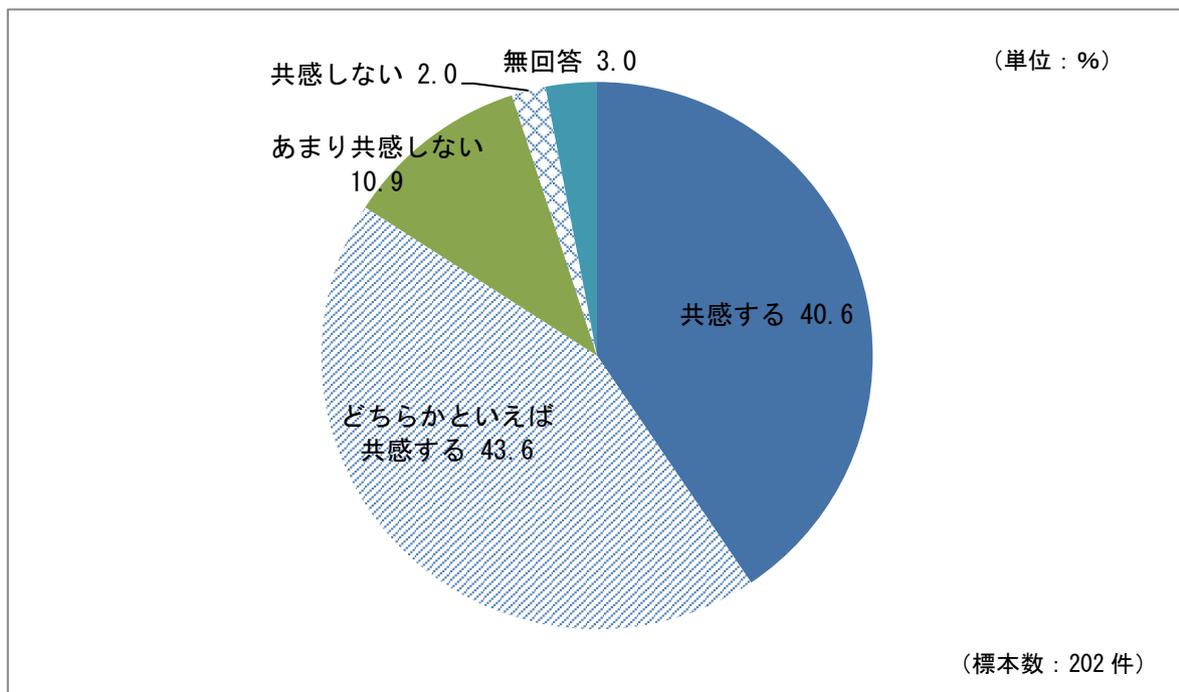
1 市民によるまちづくりの考え方

・「どちらかといえば共感する」の割合が最も高く、「共感する」と「どちらかといえば共感する」を合わせると 84.2%を占めている。

問8 安全安心で魅力ある地域をつくっていくために「自分たちの地域は自分たちでつくる」というまちづくりの考え方についてどう思いますか。(1つに○印)

	回答数 (件)	回答率 (%)
共感する	82	40.6
どちらかといえば共感する	88	43.6
あまり共感しない	22	10.9
共感しない	4	2.0
無回答	6	3.0
計	202	

(標本数 : 202 件)



2 まちづくりの基本的なルール策定による効果

・「行政の役割や責務が明確になり、わかりやすく効率的な市政が行われる」が最も高い割合となっており、次いで「市民の役割や責務が明確になり、市民の主体的なまちづくり活動が活発となる」、「市民参加によるまちづくりが推進される」となっている。

問9 現在、市では市民によるまちづくりをより一層すすめていくため、市民の皆さんや、行政、議会のそれぞれの役割等を定めるルールづくりの策定に向けて検討しているところです。

あなたは、このルールの策定によってどのような効果を期待されますか。

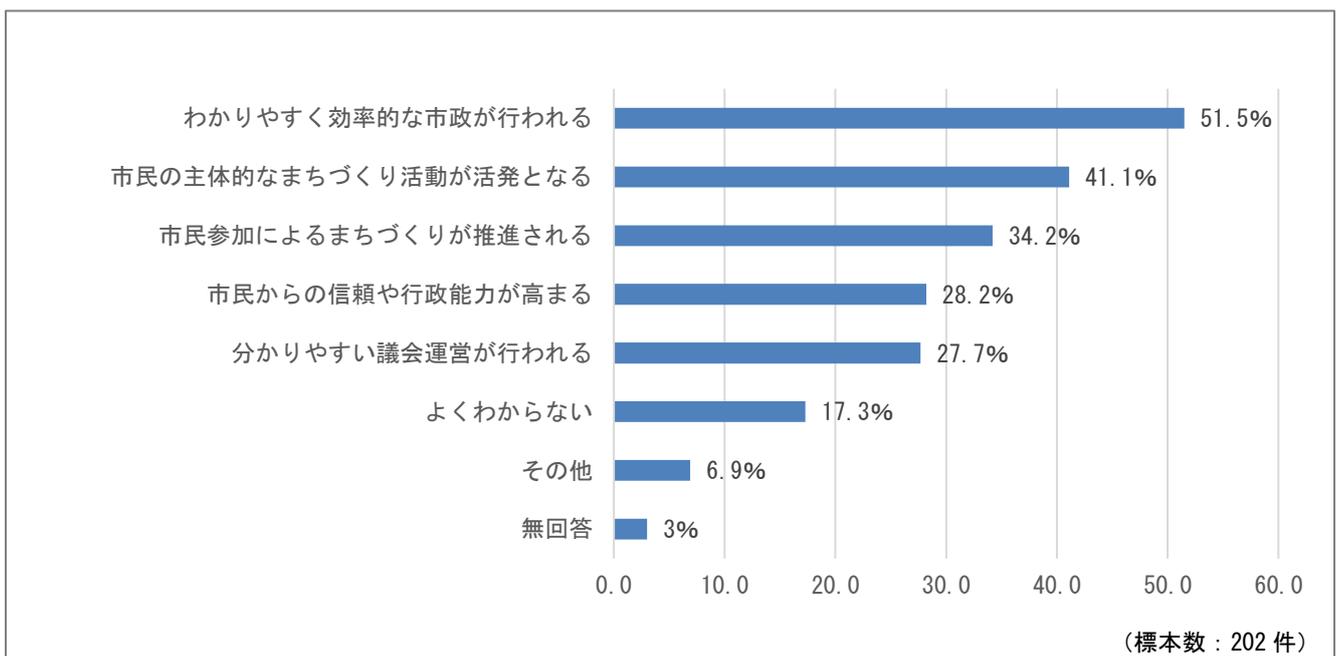
(あてはまるもの全てに○印)

順位		回答数 (件)	回答率 (%)
1	行政の役割や責務が明確になり、わかりやすく効率的な市政が行われる	104	51.5
2	市民の役割や責務が明確になり、市民の主体的なまちづくり活動が活発となる	83	41.1
3	市民参加によるまちづくりが推進される	69	34.2
4	市職員の意識が改革され、市民からの信頼や行政能力が高まる	57	28.2
5	議会の役割や責務が明確となり、分かりやすい議会運営が行われる	56	27.7
6	よくわからない	35	17.3
	その他(具体的に)	14	6.9
	無回答	6	3.0
	計	424	

(標本数：202件)

※「その他」内容

・「市民への負担軽減を考えたルールづくり」 など



3 市民の役割

・「近隣、町内などで住民がお互いを助け合うこと」が最も高い割合となっており、次いで「市や地域の活動に参加すること」、「市民が自らまちづくりの主体であることを自覚すること」が高い割合になっている。

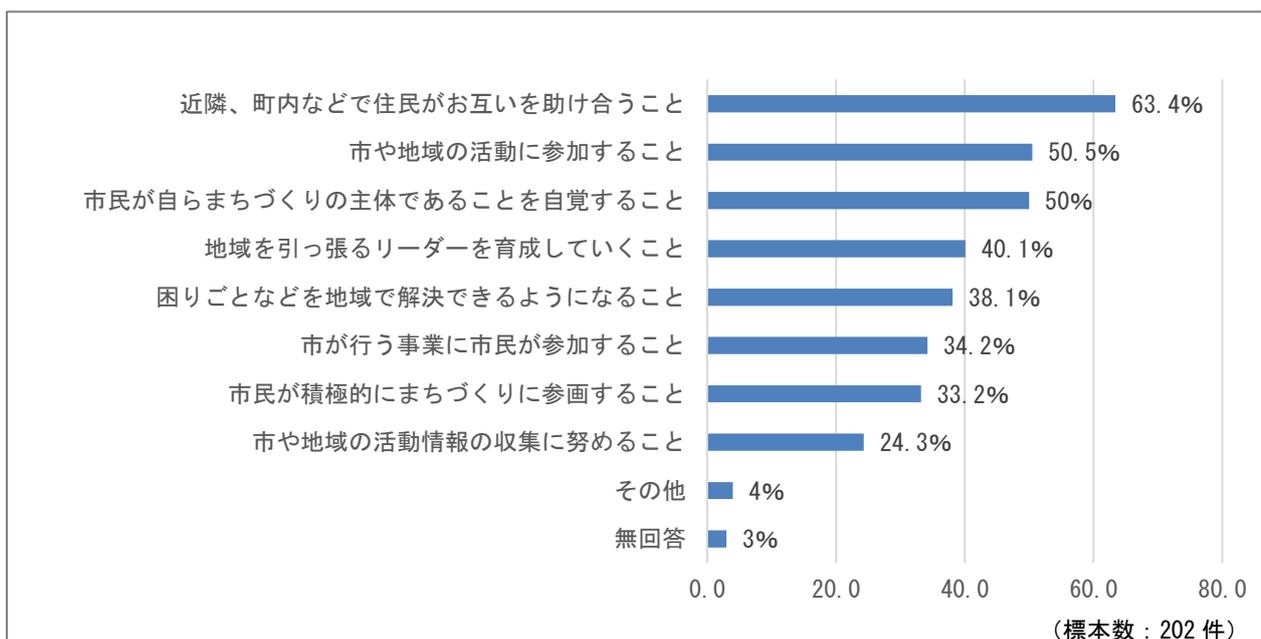
問10 市民によるまちづくりをすすめていくうえで、市民の役割として必要と感じることはなんですか。（あてはまるもの全てに○印）

順位		回答数 (件)	回答率 (%)
1	近隣、町内などで住民がお互いを助け合うこと	128	63.4
2	市や地域の活動に参加すること	102	50.5
3	市民が自らまちづくりの主体であることを自覚すること	101	50.0
4	地域を引っ張るリーダーを育成していくこと	81	40.1
5	地域が抱える困りごとなどを地域で解決できるようになること	77	38.1
5	市が行う事業の企画・実施・評価に、市民が参加すること	69	34.2
7	市民が自らの発言と行動に責任を持って積極的にまちづくりに参画すること	67	33.2
8	市や地域の活動情報の収集に努めること	49	24.3
	その他	8	4
	無回答	6	3
		688	

(標本数：202件)

※「その他」内容

・「住民同士の信頼関係が築かれる町内会づくり」 など



4 行政の役割

・「市民との信頼関係を築き、地域のまちづくりを支援すること」が最も高い割合となっており、次いで「市民ニーズや地域課題を把握すること」、「自らも市民であることを認識し、積極的にまちづくりの推進に努めること」となっている。

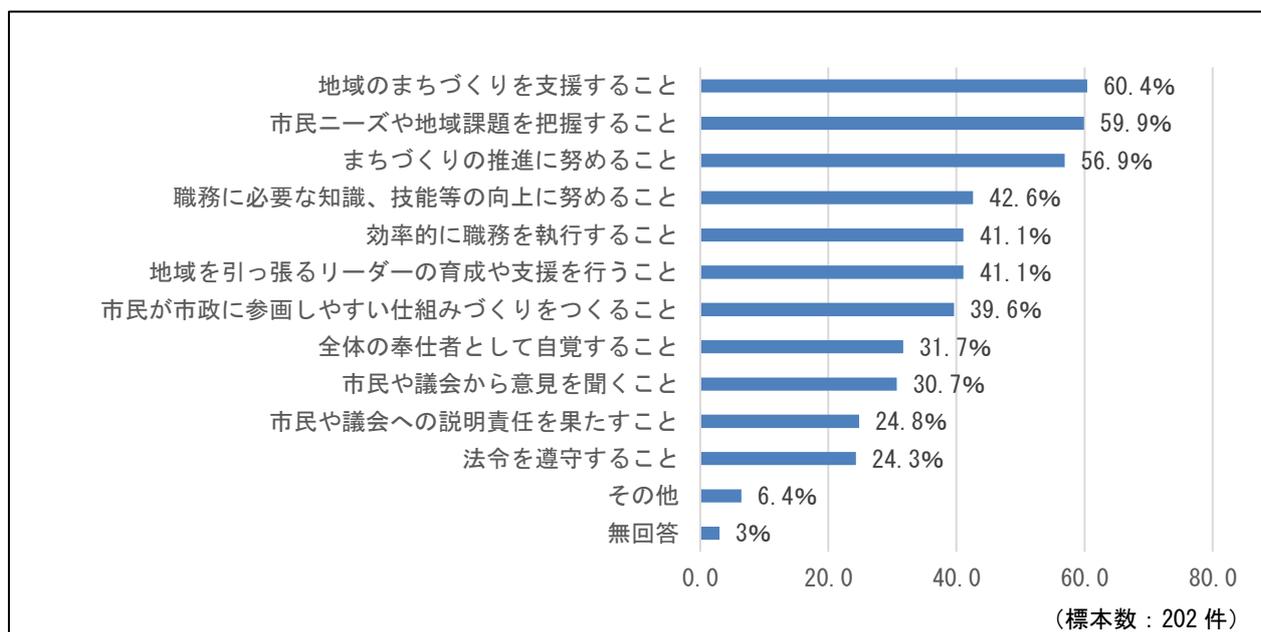
問11 市民によるまちづくりをすすめていくうえで、行政の役割として必要に感じることはなんですか。（あてはまるもの全てに○印）

順位		回答数 (件)	回答率 (%)
1	市民との信頼関係を築き、地域のまちづくりを支援すること	122	60.4
2	市民ニーズや地域課題を把握すること	121	59.9
3	自らも市民であることを認識し、積極的にまちづくりの推進に努めること	115	56.9
4	職務に必要な知識、技能等の向上に努めること	86	42.6
5	公平・公正、誠実、迅速かつ効率的に職務を執行すること	83	41.1
	地域を引っ張るリーダーの育成や支援を行うこと	83	41.1
7	市民が市政に参画しやすい仕組みづくりをつくること	80	39.6
8	全体の奉仕者として自覚すること	64	31.7
9	市政やまちづくりをすすめていくうえで、市民や議会から意見を聞くこと	62	30.7
10	市民や議会への説明責任を果たすこと	50	24.8
11	法令を遵守すること	49	24.3
	その他	13	6.4
	無回答	6	3.0
	計	934	

(標本数：202件)

※「その他」内容

・「地域支援が可能な人員配置」 など



5 市民の思いが市政やまちづくりに効果的に反映される手段・方法

・「まちづくり協議会等を通じた団体からの要望・提案」が最も高い割合となっており、次いで「市ホームページやメール、FAXによる意見や提案等」、「SNSを利用した意見や提案等」が高い割合になっている。

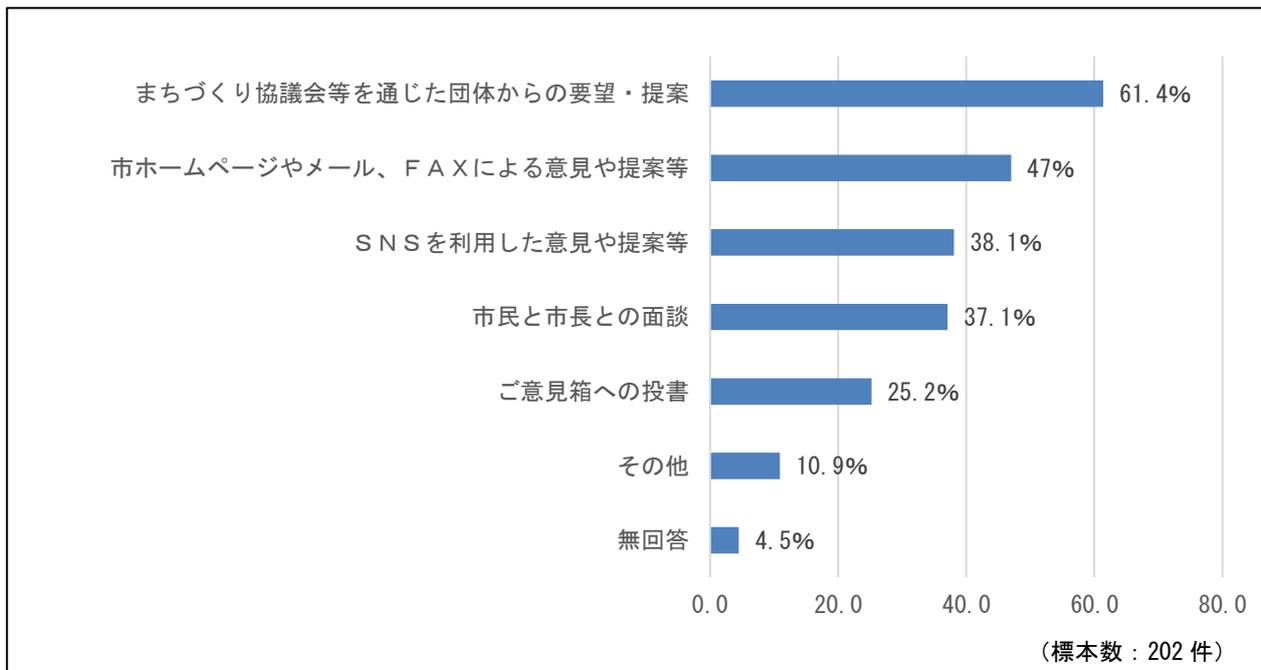
問12 あなたは、市民の思いが市政やまちづくりに効果的に反映される手段・方法はなんだと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

順位		回答数 (件)	回答率 (%)
1	まちづくり協議会等を通じた団体からの要望・提案	124	61.4
2	市ホームページやメール、FAXによる意見や提案等	95	47.0
3	SNSを利用した意見や提案等	77	38.1
4	市民と市長との面談	75	37.1
5	ご意見箱への投書	51	25.2
	その他	22	10.9
	無回答	9	4.5
	計	453	

(標本数：202件)

※「その他」内容

・「市長と団体等の意見交換会の開催」 など



4 将来に向けた高山市のまちづくりへのご意見など

問13 未来の高山市がこうあって欲しいと思う姿がありましたら、ご記入ください。

労働・産業
・ 企業誘致、雇用の創出を図ってほしい。
・ 森林・田畑をマンションやアパートにばかりするのではなく、市が率先して土地利用をすすめて、企業や人を増やす。
・ 子どもたちが自分たちのまちに誇りを持って、地元で働けるまちであり続けてほしい。
・ 高山を進学や就職などで離れた子どもたちが戻ってきたくなるような雇用、施設があること。観光に頼らない産業があること。
・ 観光だけに特化したまちではなく、あらゆる産業にも力を入れて企業誘致の取組みなど人口増加の道筋ができるまちであってほしい。
・ 働くことができるまち（働ける企業があること）
・ 観光客より地元民を優先し、地場産業に力を入れてほしい。
・ 観光と産業がバランスよく発展するまち。農林業にもっと力を入れてほしい。
・ 各地域で特色ある産業が育つことを望む。
・ 子どもたちの進学は市を離れなくてはならず、その後は戻ってくるものがほとんどないように思える。自分たちも一度はそうだった。若い方たちが働ける場所は増えているようにも感じるが、これからも推進してほしい。

農業・畜産業・林業
・ 農業関連にさらに力を入れてほしい。飛騨牛の県下一の産地として「飛騨地域産飛騨牛」の付加価値を高めてほしい。
・ 観光を支えているのは農業。スイスのように農業を支援し、きれいな環境を維持する。
・ 東京都ほどの広大な面積を持つに至り、地域の過疎化が急速にすすんでいる。EUでは日本への出国者に対し、日本の野菜は毒なので食べないようにとされているとのことなので、残留農薬や除草剤（諸外国では使用禁止となっている除草剤を日本では販売されている）の危険性を認識するべきである。災害が起きれば陸の孤島になってしまう地域なので、自給自足ができるよう、市民はもちろん観光客に安心安全な食材を提供できるよう、世界標準の農薬等の使用量を定めるべきである。無農薬栽培や低農薬栽培を行っている農業者も多く、そういう農業者が集まってきて、それぞれの地域で農林畜産業が盛んに行われる市になってほしい。
・ 民有林整備の推進と主伐・再造林による循環型林業の確立を目指す。

商業
・ 市内中心の本町通りの活性化を図る。
・ 買い物難民が増えている。三福寺町方面ばかりでなく山田町や新宮町など西側地域にもスーパーなどがほしい。
・ 大型店進出で小売店等がなくなる今日、何とか小売店が生き残れる案はないのか。店がないと地域が暗くなっていく。

- ・子連れで外食しやすい店の表示があると良い。
- ・アレルギー対応の表示がされているのが普通だと良い。

観光

- ・50年、100年先でも誇れるまちであってほしい。目先や流行の観光ではなく、いつまでも高山に行ってみたいと思われるようなまちづくりをしてほしい。
- ・観光地であるものの、都会とは違う田舎を前面に出していく。古き良きもの、あるいは日本の故郷とっていただけるような懐かしい居心地の良さ、自然を中心とした、まち全体がテーマパークであるかのようにしてほしい。
- ・空町を駐車場にする。空き家を観光施設にし、あと30分でも観光客が滞在できる施設をつくる。
- ・古い町並等、観光地は残しつつ、他の場所も観光につながると良い。

経済

- ・観光以外の産業の確立と若者が働ける工場（企業）の誘致
- ・美しい里山と半導体など先進技術産業の工業地区が共存すること。産業や地域が活性化することで若者が増え、子どもが増えると思う。
- ・経済的に豊かな地域であってほしい。そのためには、これまで市が大切にしてきた文化芸術などもさることながら、科学技術にも重きを置いた教育の推進と産業振興をしてほしい（観光も大切かもしれないが、飲食、宿泊業等は従業員の所得が低く、市内の給与所得が低い原因は、ここにあるのではないかと思う）。望む姿は、伝統文化を大切にしながら、人や自然環境にも優しい先進（技術）的な農業、工業と観光がバランスよく営まれる地域となること（理系大学を卒業して故郷に帰ってこられる地域）。
- ・活気があり、観光だけに頼らないまちづくり

保健・医療

- ・医療・福祉サービスの充実を望む。
- ・引きこもりの独居老人が医療機関を受診せず過ごしている人がいる。

地域福祉

- ・私たちの団体は県のサポーター講習を受け、園芸を通して高齢者から子どもまで、植物の成長過程を基盤として活動している。飛騨金山から神岡までを飛騨支部の管轄として活動中で、高山が中心となって、健常者も障がいのある方々もそれぞれの活動により楽しく暮らしていけるまちづくりをしていきたいと願っている。
- ・住んでいる場所がどこであっても様々なサービスが十分に受けられ、安心して暮らせるまちであってほしい。
- ・施設が多くなったことに伴い、人材育成に力を入れ、人を人が支え、助け合うまちになるよう仕掛けてほしい。地元にいる人材を大事にして、地元の人を育てる。
- ・子ども、親、若者、高齢者の間に自然に交流が生まれて、人とのつながりが温かくゆるくだが確かにあるまち。人が幸せで、まちが美しく、世界から憧れられるまち
- ・地域の課題を解決するために各地域の実情に応じて様々なシステムが構築され、柔軟な

対応（経済支援も含む）ができるまち
・暮らす人が口々に我がまちの自慢をしているような市。立場や考え方の違いを認め合う、困りごとに手を差し伸べあう優しいまち
・少なくなっていく子どもたちが暮らしやすい地域であってほしい。また社会的に弱い立場の方々の行き場がなくなり、安心して行政や団体に頼り、適切なサービスにつながるような市であってほしい。
・結婚することの大切さを伝える（共に協力して家族を作り、子どもを育て、人間的な生活をする）。

高齢者福祉
・地域包括ケアシステムの推進。それぞれの機関・施設が協働できる仕組みづくり

児童福祉
・子どもが、のびのびいきいきと生きられるまち。本来は全ての住民（年代に関わらず）がその人らしく暮らせるまちであってほしいが、子どもはその象徴である。子どもが元気のないまちに未来はない。
・子育て支援として、いつでも助けてくれたり（悩み・託児・遊び場など）、助言してくれたりする場所や人材があれば、若い親から保小中高までの子どもを持つ家庭の助けになる。（祖父母との）同居の少ない現在、それに代わる人と場所を求めているので、気軽に助けてもらえるようになってほしい。60歳以上の知恵と力を有効に使いたい。
・市における人口減少は今の時代食い止めることはできないが、少しでも子育てしやすい環境づくりをお願いしたい。全国を見ると、子育て支援の充実している自治体では人口が増えているところもある。
・少子化対策を活発にし、子どもが多く生きるまちとなることで活気ある市であってほしい。
・森林資源が豊富な市で、里山を利用して子どもたちが自由に遊び、活動できる施設があればと思っている。
・安心して子どもを産み育てることができるために、「子どもにやさしい市」と同時に「子育てにやさしい市」であるよう希望する。
・近所に子どもがいないので、集落にも子どもがいる世帯があるまち
・発達障がい児・知的障がい児の子達が、もっと自分達の将来に目標を持てるような教育と、選択肢が増える事を願う。高校卒業の資格を取得出来ると、その子の未来はもっと違ってくると思う。
・何より子ども達が過ごしやすい、また子育てのしやすい市であってほしい。
・子どもたちが自分らしく希望を持って成長できること。安心できる家庭や家庭以外の居場所、大人の存在があること。

スポーツ
・持続可能な市のために、若者や中高生に高山の魅力をもっと伝え、若者が帰ってきてでも楽しく暮らせるまちであることをしっかり感じてほしい。その一つが、スポーツを通してのまちだと思う。

交流
・デンバーなどとの国際交流は、文化交流が中心であるが、デンバーのコロラド大学や企業との研究や技術交流がすすむと良いと考える。
・しがらみの無い、自由に恐れず活動できる環境づくりや、多様性を受け入れ、地道に活動している方をしっかりとサポートをしてほしい。
・地域、文化が守られながらも、多様な人、物を受けいれて、共存できるまち

歴史文化
・多くの若者によって伝統文化、芸術などが持続される中で、高山城が復元されて、市が本来の高山城下町として位置づけられ、繁栄すること。城山周辺からの北アルプスの眺望や新緑、紅葉という自然環境があることで、人々の心が十分に満たされること。
・市の歴史的景観や伝統文化などを保持するには、多くの若者による力が肝要と思う。若者が定住、移住するよう早急な対策を願っている。加えて、学校の児童生徒に対して市の歴史的な文化財や伝統文化、芸術などを詳しく学習できる時間を与えてほしい。
・城山に金森氏時代の天守閣を復元する。総木造で50年後の文化財を目指す。
・「歩行文明」を中核とした町並みづくりや飛騨らしさを中心とした町並みづくり。その具体策の一つとして、横文字の氾濫を止め、日本語を重視した旅館、店名の並ぶ町並みの実現。古い町並を一之町、二之町、三之町以外、少しでも拡充させたい。
・市は文化財、歴史の宝庫である。外国人（特に欧米）は歴史的史跡に観光に行く。そういった建築物、史跡の観光的価値を高めるために、情報発信を含めて（英語サイトを提案）文化財の保全、整備をしてほしい。
・高山祭が100年先も続いていくようなまち。祭りをする側と（その他の）市民のそれぞれの意識の改革によって、市全体として祭りを維持するために協働できる姿を望む。
・高山城の建設を望む。高山城に文化会館を持つてくる。
・高山祭の歴史の調査をすすめるべきである。
・伝統的文化都市の継承
・伝統や文化を守り育てながらも、時代に合った改革を思い切ってすすめていけるまちにする。

協働
・若者も高齢者も区別なく手をつないで生きていくことができるまち
・高齢化がすすむことや地域の支えあいが希薄になることが心配である。
・市民が「満足感」と「幸福感」を実感できるまちが理想の姿の一つだと考える。そのためにはハード（施設）や制度面の充実だけでなく、人と人が互いに支えあい、関わりあう関係を築くことが重要だと思う。
・民生委員は報酬が出るものの、安く、担い手がない（人も減少）。市独自の別枠で委員手当をつけて対価に見合った仕事として、地域の見守りを手厚くしてほしい。町内会から、やおしで地域見守り推進委員や、まちづくり協議会委員がくるが、日中の多忙の中、このようなボランティアの役を受けることは負担が大きい。町内会の三役も仕方なく引き受けているが、町内会活動の多くは行政からの町内への下請け業務で、大変な負担になる。市からは、「地域でできることは地域でお願いします」旨の要望がくるが、逆に市

できることは、市でやっていただければと思う。

住宅公園

- ・ポッポ公園のような公園が各校下にあると良い。
- ・空き家の再利用など市が責任を持ち、市を大事にしてくれる人に売却するなど管理してほしい。
- ・空き家の活用やまちの整備が行われて、美しいまちであってほしい
- ・赤保木公園の豊かな自然が楽しめるような環境整備をぜひお願いしたい。小さな子どもたちが家族で安心して楽しく過ごせるようなのびのびとできる公園が必要だ。鳥が巣を作ったり、緑の木陰で一休みできたりするような公園を残していただきたい。
- ・こどもの遊具が充実した公園がほしい。
- ・まちの中にホッとするミニスポットが、あちこちにあると良い。計画的に市街地に緑のある公園があってもよいと思う。
- ・限界集落・空き家問題を解決すること。

公共交通

- ・周辺市町村との連携、交通アクセスを改善し、相乗効果を生んでほしい。
- ・まちなみバスやのらマイカー（個人的に、利用者が少なくこれで良いのか心配である）の利用しやすさ、コスト対効果、代替策がないかを調査・検討する必要があると思う。

景観

- ・市の素晴らしい歴史的な景観や美しい自然がずっと守られていくまちであってほしい。
- ・歴史的な町並みや自然環境が、継続して守られ大切にされるまちにする。
- ・観光事業も大事な一つであるが、景観保全も早めに対策を立ててほしい。ホテルが乱立しているが、高さ規制を低めにしてはどうかと考える。昔の景観を求めて、観光客が来ているはずである。
- ・城山も観光客、特に外国の方々が多く訪れている。城山からの眺望にも配慮いただきたい。

地球環境

- ・森林公園ができ、若い夫婦や子どもたちが自然と触れ合う中で、郷土に対する思いを育て、子どもたちの健康な心と体を育成できる市であってほしい。自然エネルギーを生かした発電などに取り組むまちであってほしい。
- ・いつまでも住み続けられるまち、自然ゆたかなまち
- ・自然環境を優先的に考慮していただきたい。
- ・エネルギーコストは県内でも高い地域である。自前のエネルギーを経済的に確保できると良い。
- ・地域性の利点を活かした、林業・地熱発電・トンネルからの流水利用によるマイクロ水力発電をすすめてほしい。
- ・氷室の現代版の蓄冷システムで高山盆地の気温変動を少しでも平準化できないものかと考える。

防災

- ・飛騨市や下呂市では障がい者弱者の災害拠点等が整備されているが、市では全くされていない。目先のことではなく、そのことに関しても早急に動きだしてほしい。

行財政運営

- ・市民からの課題提起を市職員がしっかりと理解し、市政に真に取り組んでいくスタイルの確立を要望する。
- ・箱物も近隣の自治体と共同で建設するなどして、全ての施設が市内になくてもいいのではないかと（特にスポーツ施設）と思う。
- ・経済的自立が全てに優先されると思う。市の経済がこれまでと同じようにある程度豊かであれば、それに伴い様々な行政サービスも豊かになると考える。しかし、お金がなければ何もできない。
- ・住みやすいまちづくりを行政、市民が一体となって推進できる体制を整備する。
- ・正しい市政に対して自信を持ってかじ取りをしていただきたい。慢心をせず取り組んでいただければ幸いだ。
- ・これからのまちづくりは、「自分たちの地域は、自分たちがまちのあるべき将来を想像し、それに向けて具体的に行動する」ことで、安心安全で魅力的な地域が創造できると思う。今回のアンケートは、市役所が「仕事を住民におまかせする」という誤解を受けかねないように感じる。もう少し丁寧に住民への説明が必要に感じる。市役所がすべきこと、地域住民がすべきこと、国・県がすべきことの整理が必要ではと考える。高山市よりも人口が少ない自治体でも、住民は安心安全に住むことができている。人口が少なければそれなりの体制を考えていくことが必要。将来の市のあるべき姿をイメージして計画を立てる必要があるのではないかと。

若者

- ・若い世代が活躍できるまち（議会、団体の要職の人の年齢が高い傾向にある）
- ・進学で地元を離れる若い世代がいつかは戻ってきたいと思えるまち
- ・若者が活動しやすいまち
- ・今の子どもたちが大人になってから負担の少ないまち
- ・観光都市という誇りを忘れず、美しいまちづくりを市民一人一人が自覚し、若者が住みやすい、活躍できる場を増やしていけるような取組みを考えていきたい。
- ・子どもたちがいずれ高山に戻って暮らしたいと思えるような環境づくりをすすめる。
- ・若者が定住できるよう雇用の場を確保できるまち
- ・郷土への誇りや愛着を醸成し、将来の地域の担い手となる人材を確保する。若者の都会への流出を傍観することなく、農業や観光、伝統工芸などの地域産業振興や雇用の場を創出することで、地域や全市民が一丸となって若者の市内就労を強力に促す機運を高め、未来に向けて足腰の強い市を創造する。
- ・若者がたくさんいて、笑顔で生き生きと生きている姿が見られる活気ある市。若者が高山で働き、安心して子育てできる支援や環境がある市
- ・若者にとってもっと住みたいと思えるまちにする。
- ・若者が働くところが多くあり、はつらつと働いている姿がみられたら嬉しい。

- ・若い人たちの働く場所の創出を図る。

その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市政の計画上の遅れが見られる。何十年にわたり利便性が悪く、実行性が急がれる。市長のリーダーシップに期待する。誰もが住みたい未来のまちを作ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済の衰退途上国となった日本、地球規模での自然環境の崩壊、AI などによる社会の急変、これからどう世の中が変わっていくのか想像が追いつかない。どんなふうになっても、市の「人」「自然」「文化」の良さがその時代に合った形で継承されていくと良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠方でもサービスが行き届くまちづくり。冬場は雪のため児童館の方が来られないと言われたことがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在に満足している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前例がないことを理由にすることからの脱皮を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と行政の方が話し合える機会が増えると良い。市職員を増やし、ゆとりある行政になると、市民の声も受け入れやすいのではないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健全なる市政運営をする。老若男女が幸せに暮らせるよう希望する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然と人の温かさがあり、子どもからお年寄りまで孤立せず、つながりあって暮らしている。少子高齢化が進む中、若い人がUターン、Iターン、Jターンしたいと思えるようなまち。仕事、住まい、子育てへの支援が充実してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町並みが守られ、市民の暮らしも豊かで安全が守られる社会を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化に伴う人口減少を食い止め、一刻も早く過疎地域の活性化を望む。魅力ある都市になれば移住される方が増加するのではと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化対策を充実してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が定住し、少子化に歯止めをかけ、まちににぎわいを創出できると良い。市中心部だけでなく支所地域のコミュニティ維持を図り、古き良き故郷の風景を維持してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者不足に対する支援を充実してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活気あふれるまち
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者が増え、地域に受け入れられて、移住者と市民とが一体になった活気ある市となってほしい。これは人口減少の歯止めのためではなく、外から見てのアイディア、プランを取り込み、新たな将来計画を立てるために必要な考えであると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民憲章に示されている姿
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代を担う子どもたちが「自分は高山市の出身である」と人前で堂々と誇れるような魅力的なまちであることを望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高山地域に市民（特に子育て世代）が無料で使える駐車場がほしい（無料チケット等）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援が充実している。高齢者支援が充実している。働き盛りの住民が生きがいを持って暮らせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高山地域を中心に若者が多く暮らし、子育てがしやすく、活気のあるまちとなること。その結果、伝統や文化が維持継続され、未来にわたって伝えられ、基幹産業がますます発展していくまちとなること。さらに、芸術やスポーツ、文学といった分野で、多くの先人たちの後を追ってくれるような人材が育ち、精神的にも経済的にも豊かなまちとなること。要は、市民にとって「住みやすいまち、住みたくなるようなまち、楽しいまち、

美しく素敵なまち」であってほしい。
・ 広い市内の各地区の特徴を生かし、市全体が明るく楽しい生活ができる地域となること。
・ 昔のように電源開発や森林管理署などと連絡調整を図り活動しやすいようにしてほしい。
・ 子育て世帯の若者が多く住み、観光客や事業者が多く訪れ、活性化してほしい。
・ 飛騨地域の近隣市村を高山市がリーダーとなり取りまとめ、国への提言等も含め活動して頂きたい。
・ 過疎化することなく、子どもからお年寄りまで誰もが住みやすいまちであってほしいと思う。子どもたちが安心して遊べる公園や施設が増えたり、交通手段のない人がなるべく困らないように生活できる設備が整ったりしていると嬉しい。
・ 子どもたちが安心して暮らせるまち。高齢者が生きやすいまち。市で生まれた子どもたちが、一生住み続けたいと思い、それが叶えられるまち。観光・仕事・学業で訪れる人々が、市へ移住したいと思うまち。
・ 市民が安心して暮らせるまちにしていきたい。
・ 経済優先ではなく、心豊かに生きられる市であること。
・ 私達の団体は、子育て支援の活動を通して、市の子育て支援が全国のモデルとなっていたらいいなと本気で思っている。祭りやわらべうた等の伝統文化が子ども達の世代にも受け継がれている所や豊かな自然、心温かくて子ども達への愛情にあふれた市民の方々などそのような環境で子育てをすると、こういう心豊かな子どもが育ちますよ、という事を発信していきたい。また、行政と連携してすすめている子育て支援施策（ファミリーサポート、子ども宅食、ひとり親支援、要養育家庭支援、つどいの広場等々）は、それぞれの事業がバラバラに実施されているのではなく、きちんと連動した形で必要な支援を必要な所にお届けできている。また、市の未来を本気で考えている若者や若い事業主さんも大勢いる。そのような市は、福祉、教育、エネルギー、医療、経済活動、観光、市政の仕組み、どれをとっても「高山モデル」と成りうるポテンシャルを秘めた自治体だと思っている。持続可能な社会を作る、という目標に向かって世界がすすんでいる今、市は、どの分野でも一歩先を行く理想的な自治体であってほしい。
・ 現在も、福祉分野など色々な施策は考えられていると思う。ただ、それが必要な人に届いていないと感じる。福祉的救済や制度などは、相変わらず申告制だが、必要な人ほど申告をする手立てがなかったり、情報収集力や対応能力が無かったりするのが現実である。問題が起きたとき、訪問指導などの方法をとられることがあるが、多くは、指導をされても改善することが不可能（能力的、経済的に）だ。必要なのは、状況に応じて拾い上げることである。それには多くの人材と、その事業に精通したプロフェッショナルな人材が欠かせない。現在の行政の仕組みは異動が多く、一つの問題案件を継続して取り組むことや、ノウハウの蓄積が難しくなっているように思う。行政側の担当が代わるたび判断基準が変わったりするために、携わる関係者や私たち援助団体は一貫した取組みができず、ますます困難な状況を生み出している。少子高齢化、社会的規範意識の低下、虐待や貧困対策など福祉分野を充実させることが、生涯を市で送ろうという安心感と魅力あるまちづくりにつながるものだと思う。それには専門的知識を持ったスキルの高い担当が継続して携わるなど、今までとは違うシステム運営が必要と感じている。福祉分野の問題点は、昔とは違い、新たなタイプが出てきているので、現場の状況にアンテナを張りながら、民間でできることは連携をしつつ安定的な福祉体制ができることを

望む。
・人物の顕彰をもっとすべきである。
・支所地域も衰退することなく、元気なまちであり続けてほしい。
・火葬場問題の反省と方針の明確化をしてほしい。
・他地域へ行かなくても仕事や生活ができ、ある程度のインフラと便利さのある生活が出来る。
・市の長所（自然・文化・景観のよさ）を伸ばし、短所・欠点（医療過疎・地域人口減少・冬季の除雪などの問題）を解決すること。

問14 未来の高山市のため、貴団体でできると思われる取り組みがありましたら、ご記入ください。

労働・産業
・ 産業の担い手支援の仕組みづくりをすすめる。
・ 若者が都市に流出しないための地元企業と連携した企業誘致に取り組む。
農業・畜産業・林業
・ 今まで以上に飛騨牛の生産に取り組む。
・ 農畜産物の普及はもちろん、これからの農業の担い手の普及をすすめる。地産地消の推進を図る。
・ 森林・林業・木材産業を生かしていくための協議の場に加えていただきたい。現状の施策が十分とは思えないものがある。
・ 現状のまま、地元の人たちでイチイの木の調査を行い、シカに食害されないよう保護していきたい。
・ 森林環境整備に貢献すること。
商業
・ 中高生との協働でまち（商店街）の魅力を伝える活動を行う。
・ 商店街の活性化と魅力アップや伝統行事の継承とそのバージョンアップを図る。
・ 地域の商店等、小規模事業者の経営支援を通じた地域コミュニティ基盤の維持や地域の担い手となる創業者の支援に取り組みたい。また、管内中小企業者の意見等の取りまとめと行政への伝達のほか、管内事業者のDXなどに係る専門家の派遣等や先進分野における支援にも取り組みたい。
観光
・ 景観保全にこれまで以上に努め、訪れる方々に気持ちよく観光していただけるよう取り組みたい。
・ 市の経済的安定に寄与できるよう、観光の活性化につながる事業をすすめること。
・ 地域の観光振興という観点で、少しでも地域経済の活性化に貢献したい。
・ 支所地域と連携した誘客推進を図る。
経済
・ 金融だけでなく各協会員が持つノウハウを生かし、地域創生の取り組みができる可能性がある。
・ 小規模事業者の経営発達に対する支援などに取り組みたい。
保健・医療
・ 健康寿命を延ばし、医療費、介護サービス費の削減を図る。寝たきり防止や病気の予防できる施設を増やし、手厚い支援に取り組みたい。
・ 健康、特に口腔機能の維持・向上に関する事業支援や実施する。

地域福祉
・地域の様々な人達の手による、誰でも来ることができ、参画できる居場所、地域の中 <small>の</small> 小さなハブ（拠点）としての機能としての子ども食堂を設置したい。
・多様な年齢層や生活状況に応じた支援やサービスを提供するとともに、各種福祉団体等と連携し、福祉に関する情報を収集・提供している。福祉分野における身近な存在（組織）として、行動力やネットワークを最大限に生かし、市民や利用者の声を聞きながら、地域福祉に関する諸問題への取組みを通して、地域全体の福祉の向上を図っていききたい。
・少子高齢化と独居老人宅が増加しているため、地域独自の”見守り支援”について具体化していききたい。
・インクルーシブな社会への取組みや障がい者目線での提案をすること。

高齢者福祉
・一団体のみでは難しいことが多いが、高齢者に対する施策に取り組む。
・私たちの団体は、前期高齢者が後期高齢者を支えていく社会にしたいという目標を掲げて活動してきた。前期高齢者でも活力がある人は大勢いる。そうした人に地域の支え手になってほしいと願っている。
・健康な高齢者をうまく活用できるシステムづくりを検討したい。
・認知症の方、ご家族、介護でお困りの方たちへのサポートに努めたい。今後増加していくであろう高齢者、そして認知症の方々が少しでも安心できる地域を作れるよう、精進したい。

障がい者福祉
・障がい者のための余暇支援を通じた福祉の増進、啓発活動等を実施する。
・障がい者支援事業所なので、障がい者も生き生きと暮らせる事業を展開したい。

児童福祉
・児童センターの利用や、知り合ったママ友達と母親クラブで活動する中で、子育ての意見等を出し合っていく。
・月1回の活動で母と子が楽しめる場を変わらず提供する。
・人口が増えないことには意味がないので、子連れ親子が住みたくなるまちとして子育て支援の充実を図りたい。
・子どもたちを大切に育み、このまちが好きな大人になるサポート。自然との関わりや、生き生きと暮らす大人との関わりを通して、このまちに住みたい、住み続けたい、ここで子育てしたい、貢献したい、そんな子どもたちを育むお手伝いを団体としてできる。
・少子化がなかなか改善されない現在、育てている子どもたちは将来を担う大切な人材であり、宝である。その子どもたちが健全に育っていくよう、将来に向けた事業の継続と新たな取組みを推進していききたい。
・これからも少しでも子育て支援のお手伝いが出来たらと思っている。
・安心して子育てができるまちであるよう、世代の垣根を越えた仲間づくりをしていく。乳幼児教室を充実させていくことが、子育てして住み続けたいまちになる一助となることを祈っている。

<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の性教育、妊娠中の保健指導及び相談、産後ケア(アウトリーチ型)、育児相談を実施すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う子どもたちが自立し、生き生きと生活できるように手助けする。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本一大きな自治体である市で、私たちが一番重要とって取り組んでいるのは「誰一人取り残さない地域ぐるみの子育て支援環境作り」である。広い市に住む子育て家庭1軒1軒に寄り添って、必要なサポートをしていくためには、私達だけではとても無理で、それぞれの地域の子育て支援に携わって下さる方々と連携をとって、子育てサポートでも宅食でも交流ひろば作り(居場所作り)でも実施できる体制を作っていかなければならないと思っている。そのために現在、各支所地域を訪れて子育て支援に携わって下さる方の発掘と育成を行っている。既にいくつかの支所地域では数名ずつの支援者が誕生して、連携した子育て支援を行っている。市の隅から隅までどの地域でも、子育て家庭からのSOSに対して、速やかに、地域ぐるみで、温かく寄り添って差し上げられる環境作りを完成するため、引き続き取り組んでいきたい。そして、それは災害弱者と言われる子育て家庭を地域で守る「防災」にもつながる取組みだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の行事を一緒に盛り上げる。

学校教育
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象とした「いのちの授業」を実施する。保育園、小学校で飼育されている動物の管理指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成に力を入れていきたい。年度ごとに計画して、キャリア教育等をすすめる。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どものうちから、まちづくりや地域づくりを学べる環境などを提案すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な年代の方の学び直しの機会を提供している。不登校の方や引きこもりの方にもっと利用していただき、社会的自立につながればと願っている。

文化芸術
<ul style="list-style-type: none"> ・高山独自の伝統である“高山音頭”、“飛騨やんさ”等の民謡(民踊)を伝承していく取り組み。現在一部の小学校では行っているが、体育館に集まって飛騨民謡の講習会を開いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨の民話を飛騨の言葉で語ることを通して、ふるさとへの愛と誇りを育てていくことを継続したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・派手さはないが「民藝」の持つ精神性・文化性・芸術性・大衆性・哲学性・エンタメ性などが世界へ浸透しつつあるように思う。飛騨がある意味で聖地の一つになればと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化の振興発展や支援を通じ、まちづくりに貢献する。

スポーツ
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達や一般向けのスポーツ教室やイベントの開催を通して、高山でも質の高いことができた、学べたりすることを伝えたい。そのためには、当クラブのような総合型地域スポーツクラブに対して、行政から活動を委託してほしい。民間だからできることがある。官民でアイデアを出し合うことが必要だと思う。

交流
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き日本の市民と外国の市民の懸け橋として国際交流イベントの実施や、外国人サポートとして生活ガイドブックの多言語化、相談窓口の運営強化に努めていきたい。在住外国人との連携を強化し、何に困っているかの聞き取り調査を継続的に行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・講師を呼んでアフリカの太鼓のワークショップを行っている。言葉によらない音を通してのコミュニケーション、つながっているという感覚で単に音楽を楽しむだけでなく、心の交流を目指している。
<ul style="list-style-type: none"> ・海外との文化交流を図る。

歴史文化
<ul style="list-style-type: none"> ・令和の祭屋台の製作や失われた祭屋台を復元すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の史跡の保存、保全にあたり、行政のバックアップを充実していただき、共働しやすい活動団体を目指したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の継承。「高山市田中大秀記念文学館」の開設（福井市の橘曙覧記念文学館のような施設）
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の伝承に向けて働きかけること。

協働
<ul style="list-style-type: none"> ・当会では「より良い社会・住みやすい環境・生き甲斐ある人生」を目指し、一人でも多くの会員を求めている。市民の皆さんに、意識して「自助・共助・公助」まちづくりに協力、賛同してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以降、つながりが希薄になり、子育てをみんなの力で助け合い、先輩ママから伝えていきたいということができない現状である。生きる力が弱くなり、スマホ重視の生活が見えてきている。講師を呼んで話し合おうとしても、人の話を聞くとか学ぼうとかいう前向きな子育てがしづらい。でも、地道に人間と人間が話し合い、声を掛け合う機会をすすめていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会組織は住民と密着した活動を図っているが、役員（班長を含む）のなり手が不足しているので、ボランティアを募って安全安心なまちづくり活動等に取り組んでいる。そのおかげで町内会役員の職務は軽減されている。しかし町内会への未加入者がいるのが課題である。これには行政も関係していると思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会では、住民が誇りを持って住み続けるように、文化財や伝統文化を守り継承していくことに取り組んでいる。一方、安全安心なまちづくりのために、ボランティアを募ってパトロールや見守り活動を実施している。これにより町内会等の役員（班長含む）に対する活動軽減を図っている。行政に要因に対する理解と便宜を図ることを要望する。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対して、活動の重要性、大切さのPR、広報を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは子どもたちに環境に対する意識を高める力を持ってもらいたいと思う。もちろんこれには、大人たちも手本となる努力が必要となってくる。まち協や町内会を通して親子でのイベント、高齢者との対話などを、植物やその他環境に合わせた形で実体験をしながら行っていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと地域住民に自分たちの住んでいるまちが、こんなにも素晴らしいことを実施していることを実感してもらえよう、地域を知ってもらう事業を行っていきたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の見守りを実施する（高齢者宅・危険区域等）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当団体（町内会）では高齢化や災害対応等、心配事が多く、現状を維持することで精一杯だと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が同じ方向を向き、目標を立て皆が一致協力してすすめること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在実施している市内団体や取組みに対する後援・補助を継続し、将来の「まちづくりびと」の育成の一助となれば幸いである。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの数はだんだん減ってきているが、子ども会の活動は積極的に行いたい。また、地域の活動にも子どもたちの活動を取り入れて、いろいろな世代との交流も大切にしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町連とまちづくり協議会の役割が重なる部分も多く、一つの団体組織として運営していく方法を考える必要があるのではないかと思う。少子高齢化、色々と見直す時期にきているとひしひしと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会の再編成を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民のふれあいや活性化につながる行事・活動を考え実施する。

生涯学習
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般参加の教室の開催に必要な場所の提供と運営費の援助が望ましい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子どもたちや住民を対象に、地域の歴史や文化、産業、自然資源、人などの宝ものに触れ体験し、地域の誇りと愛着を醸成する事業をすすめており、今後も様々な視点で事業を展開したい。

土地利用
<ul style="list-style-type: none"> ・ DID（人口集中）地域内に設置されている街区基準点を使用して土地の境界確認を行うことで境界標の亡失による境界紛争を未然に防ぐこと。

住宅公園
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古くなってきている空き家に対する市の対策を教えてほしい。

景観
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の景観を保全すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光都市＝美しい町並みと考えるので、緑豊かな美しいまちづくりの貢献できる職種だと自覚している。美しい景観づくりに、各企業の意識を今一度高めるような呼びかけ、活動をすすめていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町並みが、住民にも来訪者にも心地よい環境になるように、草花を飾ることや、樹木の手入れを行う。歴史的な景観が維持できるように、木製側溝蓋の防腐剤塗布を定期的実施する。

地球環境
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然遊びを実施すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原山スキー場跡地の里山、山野草復権化をすすめる。自然園造成に参画すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と共生する暮らしの豊かさ、素晴らしさを共有する人を増やすこと。自然環境に負

荷をかけない暮らし方を選択する人を増やすこと。木育を推進する。

防災

- ・ 災害対策に取り組む。
- ・ 防災についての基本的な対応を地域の組織としてできるようにする。

安全

- ・ 地域住民のための活動を行う団体なので、市のために何か取り組むことが目的の団体ではない。しかしながら、住んでいる人々にとって安心安全で魅力あるまちづくりをすすめていくことで、市が魅力ある地域となると考えている。

若者

- ・ 若い人の参加が少ない。
- ・ 若者の育成。心と体を健康に育てること。
- ・ 今、多くの若者が進学や就職で生まれ育った故郷を離れている。我々は自分たちのまちや学校の風景は、いずれ故郷を離れ活動していく子どもたちにも一生忘れない思い出となり、ふるさと飛騨高山を思う心をはぐくむことができると信じて活動している。
- ・ スケートボードをする子ども、音楽を志す子ども、ストリートカルチャー的なものの入り口は作れる。

その他

- ・ メンバーは毎年変わってしまうが、今後も継続して活動をしていけたら未来につながると思う。
- ・ 会員の減少や高齢化が今後もっとすすむように思われる。現会員のつながりを大切にすることと、もっとつながりを広げるよう工夫することが、地域の活性化にもつながるのではないかと考えている。
- ・ 未来の高山市のための募金集めを行う。
- ・ 取り組める年代ではないので団体仲間に意見を聞くくらいしかできない。
- ・ 未来の高山市に向けた現場レベルでの意見交換、課題を整理すること。
- ・ 要望を10年以上にわたって市長等に求めてきたが、何もしてもらえず、がっかりだ。
- ・ ぜひ市内の団体を活用してほしい。何でもいいのでやってほしいと声をかけてほしい。そのために団体登録している。
- ・ 一団体でできることが限られているので、他の団体や行政と協力していくことが重要だと考える。
- ・ 広域である市のそれぞれの地域が互いに特性を全面に出し、学び合い、連携して、食育改善の事業をすすめていきたい。管轄区域だけの取組みにとどまらず市全体へと視野を広げて活動していきたい。
- ・ 地域力の向上・主体性の育成・子ども支援をすすめる。
- ・ 未来の市のために協会を続けられるかと心配している。
- ・ 地域間の様々な格差のばらつきをなくす。
- ・ 地域防災・地域福祉・子育て支援に取り組む。

- ・奉仕団体として長年活動している。今後も継続して活動を行いながら、新たな奉仕の案件や要望を行政側からも相談いただければ、前向きに対応していきたい。
- ・若者への法教育、空き家対策、市民への無料法律相談を実施すること。
- ・市から要請があったことに対しては、全面協力する姿勢である。
- ・当クラブでは、月に一度講師の方をお呼びして行う活動がある。市内では様々な方がいろいろな事業をやられており、その方々のお話を聞きながら実際に活動している。自分たちが普段体験できないようなことができたり、市外から嫁いできた方などが市の伝統工芸に触れたりなど、自分たちにはなかなか繋がりが無いので、関係団体の先生などと相談しながら予定を組んでいる。市内にはたくさんの方々の活動をしている方々がいると思うが、私達の力では把握したり繋がったりすることがなかなかできない。例えば、市でこのような活動をしている人がいるという情報を提供してもらえると嬉しい。その情報を基に市内で頑張っている方々の認知も広がり、未来の豊かな市へも繋がると思う。また当クラブとしてもありがたい。
- ・社会的養育に関する専門機関として、ご家庭のニーズを代弁させていただくこと、行政の方々によりよい支援体制について検討すること。
- ・家庭や地域にいる動物と、それにかかわっておられるご家族などの相談援助を行っている。現在、犬や猫の伴侶動物はもとより、地域に暮らす猫なども、関わる人にとって心のよりどころであり、家族のように感じておられる方が多いと感じる。かつてのように番犬や、ネズミ捕り猫、という存在とは違った、「伴侶」として認知されている。また、規範意識の変化などで不適切飼育や虐待に関する感覚が鋭敏になっていることと、法律改正や温暖化による気候変動により、飼育方法はかつてとは大幅に違う。そんな中、相談される問題の原因として多いのが、「高齢」「独居」「精神・知的障がい」「機能不全家庭」「古い規範意識」である。これらに対応する際、単に動物の問題のみの介入では当事者の不具合は解決されず、多くの場合、福祉に結びつけないと根本解決には至らない。行政からの依頼も増えており、「動物の問題あるところに、人の問題あり」という実態が顕著になっている。私たちの団体で問題の犬猫をすべて保護することは不可能であり、問題が大きくなって対応できなくなる前の初期対応に期待したい。そのため、福祉関連の最前線の方々（市役所担当課、包括支援センター、社会福祉協議会、訪問ヘルパー、ケアマネジャー、民生委員など）からの、声掛けや問題の拾い上げなどが大変有効だと考えている。それには、その方々に初期対応の方法をお伝えし（研修会など）、現場で生かしていただき、実働部分で当会が援助するという方法が、現行の発展形として実効性の高いものとする。また、飛騨保健所の殺処分数は激減しているが、それは、遺棄できる深い山があることと無縁ではない。遺棄された地域の方が多大な影響を受けたり、見かけた第三者や観光客などが傷つくなどの事例が後を絶たない。遺棄を強要される、殺害するなど頻発しており、これは法的にも犯罪行為である。規範意識に関して、最前線の方からこまめにお伝えして、別の解決方法を選択できるような意識改革をお願いしたい。一方で個別案件に関しては、当会も援助に入る。この問題は、「動物のことだから」見過ごされがちで、「好きな人が考えればいいたろう」という風潮がある。ただ、子どもや高齢者の虐待などと同じく、人の生活に不具合が出ているからこそ、最も弱い立場のものにしわ寄せがいつている状況なので、改善の糸口としてとても大切になる「目の付け所」である。意識がなければ見過ごしてしまう。しっかり意識と知識、アンテナ

を張って救い上げることが求められている。(＜取組み例＞1. 地域猫活動(飼い主のいない猫の避妊手術をして地域で管理していただくもの)、2. 個別案件の相談援助、3. 必要な場合の保護、4. 猫、避妊手術の援助と代行(個人のものでも)、5. 多頭飼育崩壊相談援助、6. 現代に即した飼育方法の個別具体的な相談受付など)

・ 行政との連携において、会の運営が成り立つ。

・ 小さな事をコツコツと積み重ねている。大きな事をやる実績ではなく、積み上げていく実績もまちづくりも必要かと思う。

・ 孤立した事業所ではなく、開かれて一般の方と手を取りあえる活動を少しずつ展開している。

・ 当方のエリアは通行量が多いところである。夜間の街灯を個人負担で建設・設置した上、維持管理することでさやかに貢献している。ゴールデンウィーク、お盆などの期間の渋滞問題は、救急医療・火災の面で心配がある。住民・観光客の安全・安心を向上させる仕組みを行政と共に考えていきたい。

問15 その他、ご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。

労働・産業
<ul style="list-style-type: none">・市中心部の高齢化による人手不足を補う、外部からの支援を可能にする仕組み作りが必要かと思う。・観光だけではやっていけないところに来ている。足元を固めながら企業の誘致や働く場所の確保など、今取り組まなければ市の将来どころではなく、経済的にもすべて行き詰って来ることを感じている。
農業・畜産業・林業
<ul style="list-style-type: none">・堆肥利用の促進、新規就農者への畜産団地建設（就農支援）既存牛舎及び施設の改修への支援、その他に全共への協力と支援をしてほしい。・地産地消をすすめてほしい。食べるものは人生において大切。災害時に備え、飛騨の農業、畜産業を大切に育ていける環境を求む。私たちもできることを精いっぱいやっていく。・高山市森林整備計画書を策定してあるが、市の関係職員がその内容を十分に理解し、日々の行政に生かされていない気がするので、市民も参画したうえで、理想の計画書となるよう検証願いたい。・市は木とは切っても切れない文化を持つ地域だと思うが、一般の人は意外に木のことを知らない。そこで市民を対象とした、木に触れ、木の良さを感じる素朴な施設や機会を作してほしい。木が良いと思える価値観を作るために、市民向けの講演会や学校教育等で働きかけ、総合的な政策を長期的計画ですすめてほしい。林業、建築業にとどまらず、多くの分野に大きな経済効果があると思われる。・山の有効利用について検討してほしい。
商業
<ul style="list-style-type: none">・本会は、地域の中小商工事業者が、その事業活動を継続、発展できるように支援することで、地域の方の安心した暮らしに寄与しているものと考えており、引き続き、こうした活動を継続する。本会のこうした活動に対する行政の支援を今後も継続してほしい。
観光
<ul style="list-style-type: none">・次の観光資源を考えないと、どこにでもある地方都市のように埋没してしまう。
経済
<ul style="list-style-type: none">・親子でレクに参加できるチケット（週末遊びチケット）を配ると、市の中でお金が巡りやすくなる。遠方に出かけお金を使っている状況では、市の中でお金が巡らない。
保健・医療
<ul style="list-style-type: none">・医療をもっと充実させてほしいとよく話している。出産の次は、子どもたちの様々な病気（小児科・耳鼻科・眼科。皮膚科等）で受診する必要があるが、科によって受診に苦労している。今後、市で誘致することを期待したい。

- ・休日や救急で日赤に行っても小児科医師がいないと結局後日の診察になってしまい不安なので、例えば市内の小児科医院で当番制で対応してもらおうなど、いつでも診てもらえるようになってほしい。また、病院の選択肢が少なく、皮膚科と小児科が増えてほしい。
- ・発達障がい専門の先生・クリニックの誘致をすすめてほしい。

地域福祉

- ・疎遠、孤立対策のため、経済的・精神的ゆとりのない中で、世代を越えたコミュニティづくりをもっとすすめてほしい。

高齢者福祉

- ・団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築がすすめられている。そこで当会では、住まいの専門家が、地域包括ケアシステム中の「住まい」にかかわることにより、住み慣れた自宅で安心して暮らしたいという高齢者の思いをかたちにしたり、地域包括支援センターをはじめ居宅介護支援センター・市町村の相談に対応したりすることにより、よりよい生活が継続できるように、多職種と連携することができる「福祉まちづくり建築士」を育成し2018年より活動を続けている。岐阜県で27名、内飛騨では高山市2名、飛騨市1名、下呂市1名が登録しており、日頃から講習・フォローアップ研修等に参加し最新の知識、情報を取得している。また、2020年以降市外の団体との間で「介護保険制度による高齢者支援に関する連携協定」を締結し、介護保険住宅改修適正化事業の住宅改修において書類審査・アドバイス等を行っている。飛騨に於いても、発足当時に各機関へPR活動をしてきたが、今一つ認知されていないようだ。「地域包括ケアシステム」の目的達成のためにも「福祉まちづくり建築士」をぜひ活用して頂きたい。
- ・子ども食堂のみならず、老人食堂がいるのではないかと。場合によっては施設の食堂または公民館、給食センターの厨房をセントラルキッチンとして利用（機材コストがかからない）し、全体に行き渡るようにする。市は独居老人についてどこまで把握しているのか。住所、氏名、年齢など全員を把握し、どこに多く点在しているのかをすぐ答えることができる位にしてほしい。また、近くに生活用品、食品が賄える所の有無を把握する必要もあると思う。

障がい者福祉

- ・当協会の会員は高齢者が多く、減少している。未来の市のために、聴覚障がい者の情報がほしい。市には手話ができる人も多くできたらうれしい。

児童福祉

- ・子どもたちの遊べる場所がない。富山方面へ行かないと遊べない。遊園地、映画館などがあれば、他の地域へ行く回数が減るのではないかと。行政に言っても聞くだけのことが多い。
- ・子どもの遊び場。ゲームセンター等ではなく自然に触れる場所を整備してほしい。

・赤ちゃんの抱き方、発達の大切さ等、もう少し深く考えていく機会があると良い。1歳入園の子が増えすぎて、親子関係が希薄になり過ぎている。子どもが育ち「戻ってきたい高山」となるためには親子時間の大切さを伝えていく必要があると思う。

・このコロナ禍で浮き彫りになった、子育て家庭の孤立・孤独や貧困問題に対し、必要な支援を（ファミサポ、ひとり親支援、要養育家庭支援、宅食、ワイワイカフェなど）行政と連携しながらすすめた結果、多くのお母さん達から「助かりました」「この支援施策があっただけよかった」という声をたくさん頂いている。とはいえ、日本一広い市では、子育て支援に関して言うとまだまだ課題は多く、現在取り組んでいる事業は次のとおり（優先順位をつけて順番に取り組んでいる状況）。

①子育てタクシー：何人ものお母さんから「ファミサポでは送迎はないんですか」と尋ねられる（全国では、送迎も支援内容に入っているファミサポが多い）。ファミサポ導入時に送迎について検討した時に、「送迎はタクシー会社の事業に迷惑がかかるから」という理由で送迎は入れない事になった。しかし、「仕事が長引いて保育園にお迎えにいけないので、迎えをお願いできないか」「朝早く仕事に行かないといけなくなったので、保育園まで送ってもらえないか」という相談をよく受けるため、岐阜市などで導入している「子育てタクシー」を市で取り入れられないか、検討している。これは、子どもだけをタクシーに乗せて、必要な所に送迎する仕組みで、「全国子育てタクシー協会」が実施する講習会を受講したタクシーのドライバーにライセンスを発行しているものである。

②全天候型の木育施設：「雨の日も雪の日も遊べる広場がほしい」「岐阜市、各務ヶ原市、輪之内町、養老町など、岐阜県各地にできている木育施設を飛騨にこそ作ってほしい」という声を本当にたくさん頂いている。これについては、現在、市で検討中なので助かる。飛騨ならではの地域特性あふれる、他地域や観光客も訪れる、楽しい広場を運営できるように、現在、人材育成に取り組んでいる。

③ファミサポの病児、病後児対応：「子どもの熱が下がって〇日たないと登園できなくて、自分は仕事に行かないといけないので、なんとか預かってもらえないか？」「病児保育施設が定員になってしまって預けられないので、なんとかファミサポで預かってもらえないか」という声も本当にたくさん頂いているが、この事については、看護師資格を持った人材が確保できないので、実現にはまだかなり時間がかかりそうである。前述の設問の「お困りごと」で挙げたように、運営資金不足が一番の悩みである。寄付を集めに回る時間もとれず、10年以上たった今でも、スタッフ皆の熱意頼みで手弁当で事業に携わって頂いている。しかし、「とてもいい形で行政と連携できていますね」と県や様々な機関から評価を頂いているので（国会でも話題に）、何とか活動を継続していけるように、今後も市に縷々相談しながら、必要な支援を必要な所にお届けできるように頑張っていきたい。

・子どものため未来のために、お金を流してほしい。お年寄りもちろん大切であるが、支えるという視点より、生涯現役で世の中に役に立てるといった気持ちを持てる社会になると良いと思う。病気や認知症、フレイルなども生き方で変わると思う。

学校教育

- ・インクルーシブ教育と、教育者の養成充実を図る。
- ・私の子どもは地域内に同級生がいない。このままだと、小学校の間、学年で1人のまま過ごすことになる。前後の学年も5人ほどだ。近隣地域の保育園、小学校を合併してほしい。少人数ならではの良いところもあると思うが、同級生はかけがえのないものであり、この少ない人数でしか社会経験を積めずに高校、大学といきなり広い社会の中で萎縮してしまわないかが心配だ。周りの保護者も同じようなことを心配してる方が多い。

文化芸術

- ・各地域に伝わる祭り文化の相互理解ができる組織づくりを推進してほしい。私たちの団体は伝承芸能関係の保存会に加入しているが、退会される団体が増えた。

スポーツ

- ・部活動がなくなっていくと、クラブチームなどで本気でやる子以外の受け皿がなくなるのが心配。楽しんでスポーツを続けられる環境ができると良い。
- ・子どもにさせたいと思える部活を含めたスポーツや文化的な活動の選択肢が少ない。幼児期は色々な機会があるように思うが、小・中学生になった時が心配に思う。

交流

- ・積極的な移民の受け入れ等を行ってほしい。
- ・多文化共生の推進は行政との協力によって可能だと思う。一層の協力を希望する。また観光事業の強化も大切だが、高山に住む外国人にも目を向けた市政を期待したい。外国人住民の数は人口の1%ほどだが、少ないからこそ日本人より支援を必要としており、サービスの提供が求められている。まずは市の今後の方向性として、国際観光都市から多文化共生都市を目指す姿勢を打ち出してもらいたい。

協働

- ・町内会で緑の募金、日本赤十字の社資、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金などの集金を取り扱っている。本来ならばそこに住んでいる者みんなの協力を乞うべきである。しかし、徴収は町内会員のみとなっている。このことを嫌って町内会への加入を敬遠している向きもある。行政が、町内会加入を普及、促進などして、矛盾したやり方を正すべきだと思う。
- ・まち協を動かしているのは町内会（役員を選出や事業の周知）であるが、町内会への加入率は5割近くになりつつある。一方、市からの連絡事項に町内会を頼っている面も強く感じる。それならそこに有効な手立てはないのかと思う。
- ・私の住んでいる町内でも地域の支えあいがなくなっている。町内会月例会（各町内会長の集まり、市からの伝達事項）の後、各地区で常会（市からの伝達事項と地区の諸問題）を行うが、どの地区も毎月常会をやらないといったことが起きている。地区花壇も作らない方向にすすんでいる。これでは地域の人と人とのつながりがなくなっていくと思う。もっと住民の皆さんの考えをプラスの方向に変えていかないといけないと思う。

<ul style="list-style-type: none"> ・まち協と社協の役割が不透明。行政自身が他機関と積極的に連携し、情報を共有し、市民一人を救えるまちづくりを構築すべき。そのために人を大事に活用すべきではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の職員の確保の問題。人件費を別枠で支給するか、市職員を配置する。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの地域は自分たちで守るという考え方には共感するが、地域全体に浸透していないのがとても残念である。何か良い方法はないものか。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政による積極的な活動の指導・支援が協働のまちづくりには必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民によるまちづくりをすすめる上で、合併以降、市内中心部と支所地域の格差が更に広がり、既に地域住民だけでは課題が解決できない地域があるように思う。市内中心部の方のマンパワーや資金、時間を調整して、資金や人手が足りないところのまちづくりを助けられたらよいと思う。実現は難しくても、そうした思いがあれば地内全域の一体感も生まれるのではと考える。更に投資があった中心部は、人も多く、お金もあり、意見を通しやすい。市民によるまちづくりが、地域に公平な結果をもたらすか、少し気にかかる。
<ul style="list-style-type: none"> ・市内 20 地区のまちづくり協議会に、若年層の事務局員の雇用体制を確保することを提案する。大切なのは、若い事務局員の将来の人生設計などが成り立ち、彼らが安心して職務に取り組むことができること。そのため市職員と同等レベルの人件費や福利厚生制度の適用が可能となるよう、まち協への市支援金を確保する必要がある。この取組みが実現できれば、地域の若い担い手リーダーを確保するとともに、20 地区のまち協が若者目線で様々な新しい地域づくりを着実にすすめることができると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ここに住むだけで役が多いので、整理して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会が市へ提出した書類について、一方通行で、「経過」「結果」「フィードバック」「フォロー」が相対的に無い。結果、同じ要望を毎年繰り返しており、対応の可否、可の場合の部署・状況・時期が全く把握出来ない。情報提供（緊急）に対応していただけた場合でも、何の連絡もなく、対応状況報告も無い。
<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の町内会組織がどんどん縮小し、日常的な助け合い、町内会としての活力が徐々に失われてきている。それが少しでも解消できるように、町内会相互の合併・協力などがすすむような提案をしても、全くというほど進展しない。市街地ほど高齢者が多く、現状を変えることに大きな不安を持っているうえ、1、2年という短期任期の町内会長は面倒な取組みに関わり合いたくないという心情があることが、一層進展を妨げている。大きな改革をすすめるには、大変でも行政が声をあげリーダーシップをとる以外ないのではと思っている。

<h3>住宅公園</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨市の杉崎公園のような大きな公園が市にあるとうれしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・車が止められる、地元住民が使いやすい公園の整備を望む。当地域にもアスレチック等、遊具の充実した公園がほしい。また、原山公園にももう少し日陰がほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・古民家の有効利用について検討してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい児童館のトイレを親子で入りやすいように整備して欲しい。

公共交通

- ・支所地域にはのらマイカーなどの交通網が整備されており、平日に診療所に通うには便利が良いが、市役所や中心部に買い物に行くには便数が少なく利用しにくい。また、高山地域側から観光客が利用するには便数が少なすぎ、利用できない。乗り合いタクシーのような小回りの利いたサービスを検討していただきたい。
- ・路線バスの見直しをしてほしい。高齢者の運転による交通事故の原因の一つには、免許を返上すると通常生活に支障が起きるから返上できないことがある。地球温暖化防止、二酸化炭素排出削減のためにも、高齢者が早期に免許を返上できるよう、公共交通機関（タクシー利用含む）の充実を図る必要がある。ハブ型（中心を高山駅とする）路線を作ることにより、例えば高山駅へ行けばどこへでも行けるようになることで、自家用車を持たずに生活が出来るようになる。これはどの世代にも通じることで、自家用車の利用が減れば、事故も減り、公共交通機関も空運行を減らし収益を上げることが出来れば、二酸化炭素を削減し、環境にも良い。自家用車からのシフトは難しいが、全市で取り組むべきではないか。

道路

- ・松之木千島線を丹生川町方まで延伸すること。中部縦貫自動車道を松本までつなぎ、東京までの移動時間を短縮してほしい。
- ・ゲリラ豪雨は近年顕著な問題である。雪またじも、従来の融雪水路として使用困難な「側溝問題」は、生活快適性（アメニティ）向上のためには必須改革案件である。高齢者の特に多い地域については真剣に考える必要がある。

地球環境

- ・観光的にも自然が売り物である割には、人文系の諸施設に比べ自然史分野が前面に出ておらず、山岳博物館が全国的にも知れ渡っている長野市、大町市に後れを取っている。倉庫化して眠っている山岳資料館を「飛騨山岳博物館」へと発展させ、自然史の文化が香る都市を目指してほしい。
- ・高山駅の飛騨らしさを発現した自然公園づくりの推進や乗鞍口、白山口の自然展を工夫してほしい。

安全

- ・安心安全に生活できる社会にしてほしい。全国で物騒なことが起こっているので心配である。

消防

- ・消防団員減少の歯止めが必要。操法大会の意義は何なのか、一番の負担になっているのではないかと思う。

行財政運営

- ・地方自治の本旨に基づいて、国や県の言うままでなく、本当に市民が求める市になることを望む。

<ul style="list-style-type: none"> ・市民からの要望、相談を丁寧に聞き、対応できないことにはその理由を、できそうなことには経過等を、楽な気持ちで話し合える環境と雰囲気を持った専用窓口の設置を求める。
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な事業計画、効果が期待できる計画の策定において、これまでに行った事業の（全国の自治体を含め）KPIに基づき、AIで診断して、新たな事業を立ち上げることも可能な時代になったと思います。その場合は、AIによる判断を参考としたことを明示し、AIによる判断の検証が必要だろう。
<ul style="list-style-type: none"> ・市が景観保存地区に整備した「木製側溝蓋」は、歴史的な景観にふさわしく、旅行者の目にもきれいに映って大変良い印象を受ける。しかし、木製であるがゆえに、その維持管理には、手間も金銭もかかることがあまり認識されていない。少しでも木製側溝蓋が長持ちするように、当保存会で防腐剤の塗布を定期的に行っている。かつての県知事が県内各地に立派な建物を建てた。その多くが維持管理に多額の予算や人手が必要で、維持管理の委託をすすめ、一部は廃棄となってしまった。また身近では、桜山八幡宮の宮川沿いの大鳥居も雪の落下などの危険もあり、同様の問題を抱えている。市においては、景観保全に関する整備をすすめるうえで、安全性・維持・管理まで含めた計画のもと整備をすすめていただきたい。

<p>若者</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市に大学を設置して若者が定住できることを願っている。できない場合には、大学と連携して「学部」だけでも設置することを願っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校・大学を卒業し、地元で就職と思っても、給料が低く社会保険料が高いので、やはり他県で就職することを選んだという話を周りでよく聞く。若い人が地元で就職して働くことに支援があると良いと思う（金銭面、環境面、魅力の発信など）。
<ul style="list-style-type: none"> ・市に総合大学を誘致してほしい（1.市の人口流出を防ぐ、2.担い手対策、3.起業支援による地元企業の創出等のメリットがある。一時的、観光的な大学研究部門の集会場も意味深い、総合大学は多くの学生が市内で生活することとなるため、メリットが大きい。既存大学の分校等、誘致してほしい）。
<ul style="list-style-type: none"> ・市に魅力を感じない若者が多い。若者が楽しく集える場所、遊ぶ所、服を買うにもセンスが良い店がない。とにかく休日に行く所がない。発散する場所がない。給料も安い。可哀想だなと思う。ホテルが次々と建設されているが、人員不足で他県の系列ホテルから補充をしている所もあるそうだ。市はどこへ向かって行こうとしているのかよくわからない。若者が市で楽しく安心して生活していける取組みが優先ではないかと感じる。

<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・個人からや、町内会（まち協）から、各団体（ボランティア）・企業から、まちづくりの細かい提案があるはずである。市民の思いを効果的な手段・方法を用いて拾ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・正直今までこういったアンケートに回答したことはなかった。市政やまちづくりに対して「自分ごと」という意識が希薄だったのかもしれないが、市民感覚として大きな組織や古い体制に働きかけても徒労に終わるだけ、無駄という気持ちが強い。だから自分たちのできるところでやれることをやろうと市民活動などに参加している。あまり期待はしないが、今が変革のチャンスなのならば、諦めてしまわないで協力し合って、幸せの

<p>ある未来を目指したい。市民も市政も立場を超えて、まちづくりで協働できる仕組みが作られることを切に願う。自分たちに何ができるかも併せて考えていく必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・当団体では、支所と相談して（頼まれて）救命救急について、食育について、支援センターの指導など長年続けてきた。町内バスを利用して巡ったこともある。今年度もそれらがあるのかと支所へ尋ねたところ、当団体のためだけには行えないと言われた。行事を計画し、実践するのは大変だろうが、こちらからお願いしたことではなく、支所の方からやってくれないかと相談があり、今まで受けてきた。行政や児童館そして我々が協力し合っつながつてお子さんを育てていけると考えていた。子育てについて一生懸命やってくるつもりだったが、残念な言葉だった。当団体の役員みんなで、「どうして、なんで」と話している。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の方々も大切だが、地元の方々に住みやすいまち、将来に希望の持てるまちづくりをしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・みんな笑顔でいよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野を身につけたリーダーを育成してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとって市民憲章は何とか行き渡った感があるが、「高山市の花」とか「高山市の木」及び市章に至ってはまだまだ市民に伝わっていないように思う。せっかく決めていることならば市民が知っていて当然だと思う。小さなことだが、そんなことからでも「愛すべき高山市」が身近になるのではないか。長野県では誰もが県歌を歌えると、先日テレビで知った。市でも小さなことを参考にして取り組みれば良いかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・支所地域どこに住んでいても、同じ住民サービスが受けられることが望ましい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市の取組みを頑張してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声が直接市政に届くことは難しく、時間がかかるものと理解はしている。しかし届けたい思いを諦めることなく継続して市へ届けていくことによって、それが市政に反映され、そして各企業への発注の流れとなり、企業が潤うことを望んでいる。わが団体としてできる活動は積極的にすすめていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光に頼っている現状を払拭し、多くの部門で魅力ある都市づくりを希望する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「協働のまちづくり」は聞こえはいいが、本来行政が行うべきと思われることも、まち協に移行している感がある。市職員が「それは自分たちの範疇外」と最初から拒否することも散見される。今後役割をはっきりさせるとあるが、皆が連携することが最重要なので、フォローする面も明記してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光も大事だが、少子化対策・災害対策はもっと重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・当組合は現在 1 人しかいない。色々な設問があるが、答えられるものはない。この組合は保存と伝統を守る会である。過去には組合員が 100 人位いたが、高齢化がすすみ現在に至っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・駅西地域に図書館、映画館、演劇、演奏等ができる複合施設があれば良い。また道の駅は高山地域にはなく、問屋町に設置してはどうか。JR 高山線に自転車列車を導入し、高山から岐阜、富山へ下るコースを開設してはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の職員さんは頑張っておりありがたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに回答して、行政が様々な手段や方法を講じておられることを改めて感じた。市は人の心も美しいまちだと思うが、精神的にも経済的にもゆとりがないとその良さを発揮していけない。格差のない豊かなまちづくりを希望する。

<ul style="list-style-type: none"> ・皆が元気で暮らせるまちになると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体から転勤で来たが、高山は色々イベントがあって、まちが元気だと思う。若者も元気があると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政と市民が一緒になって考える時が来ている。縦割りではなく、広く知恵を集めて考えるようなシステムを構築することが急がれる。少子化によるダメージが年々大きくなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に歯止めがかかるような施策を考えて、ビジョンを立て、スピード感を持って実行することが急務だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・生成AI等の人工知能分野の進歩、生命工学、ナノテクノロジー等々の技術により、世の中が急激に変わろうとしている現在、10年先、20年先をどう想像するのかは、極めて困難である。そうした中で総合計画を策定するには、想像力を最大限に働かせなければならないし、科学技術を理解する素養も必要と思われる。専門家の意見も聞かなくてはいけないだろう。将来像をどのように想定するかで、総合計画の真価が問われるような気がするが、将来像を描き切れなくとも、世の中の急激な変化に対応できる柔軟な計画であって欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケート調査を受け、1982年（昭和57年）平田吉郎高山市長の時代、市が飛騨の人々に「飛騨高山地域の教育環境について」というテーマで提言を募集された事を思い出した。それらの提言を編集した「提言論文集」および1980年・1982年に発行された「高山市第3次総合計画」に関する市職員の方々の「提言論文集」と「木の大学をめざして」という書物を頂いた。その41年前に書かれた「提言論文集」に記載されている内容には、次のとおり様々な提案がある。「①医療施設・老人介護施設・ごみ処理場・太陽を利用する電力等への提案、②各種産業・商業・観光に関する提案、③伝統文化・大学・専門学校に関する提案、④鉄道・道路等の交通網に関する提案」 令和4年度の「市まちづくりアンケート調査」を閲覧すると、やはり高齢化及び医療・福祉、地域経済、道路交通環境等が上位を占めている。41年前に問題視されなかったが、今、日本全体の難題が「少子化・人口減少対策」である。市の人口増減率を見ると2020年（85,332人）が2045年（62,866人）と推定されている。市は風光明媚な住み良い地域で、ここに生活の糧となるしっかりとした基盤を作り上げる事が飛騨全域の幸せを招くのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・市会議員を10名程度にすることを真剣に考えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・一つわかりやすい問題として、街路樹が必要かどうかと思う。これからの時代、必要じゃないものに維持費をかける余裕なんて無いと考える。全部切れれば良い。維持費が無くなり道路の見晴らしが良くなって事故も減る。都会じゃないので木はいらない。いくらでも山にある。そうやって一個ずつ、確実に無駄な事を削ってほしい。会議とか、面談も同じく無駄である。まち協も無駄である。何やっていいかわからないなら必要ないと思う。「その講師呼んで、その活動、予算付けてまでやる事か」って事ばかりをやっている。相当にある無駄をなくしてから夢（未来の高山どうこう）を語ってほしい。無駄な金を尻拭いするのは今の子供世代なので、大人が責任持ってやるべきだと思う。負の遺産を減らすだけで良い。夢は子供に託すものだと思う。発想がまるで逆だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・母親として、子育て中の方々とのお話でよく話題になることを次に挙げる。

まずは、市の公園の充実を求める。隣の飛騨市に、杉崎公園が立派にリニューアルされたことからつながっていると思う。市には多くの公園があるが、どこの遊具も老朽化がすすんでいる。せっかく行った公園で、使用禁止の紙が貼ってある。子ども達は遊びたがるが、「これは危ないから遊べないよ」と泣き叫ぶ子どもに言うこともある。使用禁止の遊具ならば、撤去していただけたほうが子ども達の安全にも繋がると思う。例えば緑地公園には、昔は木の遊具がおいてあったが、今は周る遊具だけしかない。昔はコーヒーカップのように真ん中を回せば回ったものが、壊れて、乗った状態では子どもは自力で回せない。外から親が回そうにも、遊具周辺がくぼんでおり、雨が降った次の日には水たまりができ、水捌けが悪く遊べないことが多々ある。また夕方に公園に行くと、児童が公園で元気いっぱい遊んでいて、滑り台なども含め鬼ごっこしたりしている姿をみることが多い。そうなる小さい子ども達は遊べず、お互い窮屈な思いをすることがある。小さい子どもには砂場などあるだけで十分遊べるが、砂場がある公園は少ない。砂場だけでも作っていただけると嬉しい。敏感な子どもたちが育っているこの世の中、触覚過敏などをもっている子どもたちも多いので、触れ合える場所はとても大切だと思う。もう一つは、お稽古や活動団体などの情報などを手に入れる手段が少ないことである。ローカル情報誌などに掲載されている以上に市内には様々な活動があると思う。例えば、ピアノを習いたいときに個人のピアノ教室など、街角で見かけることはあるが情報がないということがある。そのようなお稽古の一覧のようなものを作っていたら、その中で興味があるものや気になる先生などを選ぶことができ、市内で頑張ってみえる方々の支援にもなると思う。子ども達の未来の幅を広げるためにも、ぜひそのようなものを作って周知していただきたい。私は生まれも育ちも高山で高山が大好きで、そこで子育てできることを嬉しく思っている。しかし、最近では「飛騨市は教育に力をいれているらしい」などと聞く場面が多く、少し寂しい気持ちになる。市へお嫁にきていただいている方々、また市で生まれ育った方々、みんなが高山で子育てってめちゃくちゃ良いと感じられるような市になったら、とても嬉しい。

- ・ 伴侶動物について、日本では費用さえ払えばどんな人でも簡単に購入できる。対応事例の中に、明らかに飼育不能者が購入し、飼育しきれない、死亡・入院入所で置き去りになるなどの事例が後を絶たない。また、無届のブリーダーまがいの行為で増やしたものが管理できない、避妊手術を怠り多頭飼育となった、なども多発している。地域では、いくら「避妊手術をして一代で終わる命を大切に共生していただく」地域猫活動を推進しようとしても、不満に思う人の虐待や遺棄などが絶えない。つまり、地域を整えるため、また、飼育不能者が購入してしまったあるいは、途中で不能となってしまった場合の、動物の受け入れ先が必要である。それには、欧米では当たり前になっている、『シェルター』が欠かせない。現在、飼育できる人の数より多くの犬猫が生産され、猫は避妊手術が行き届かず地域でも増えていく。それらを一度『シェルター』で保護することにより、適正管理の糸口となると考えている。譲渡の際は、適正飼育を継続できるかを基準に審査することで、不能を減らす。それは欧米では当たり前の取組みだが、それにより、スキルを持った飼育者となることと、いざとなった時も安心できる飼育環境を提供することができる。余剰を減らす、適正な飼育と生活の回復ができるように取組みを開始することで、このシェルターは小さな規模となる。取り組まない場合は、このシェルターは大きくならざるを得ない。これを今、民間団体である当会が担っているが、これ

以上の受け入れは不可能な状態である。地域には空き家などが点在しているので有効活用ができれば、地域活性化と啓発、行き場のない動物たちの受け入れ場所、そして、飼育はできなければ触れ合いたい市民の憩いの場として提供できると考えている。いずれにしても、環境省で「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」で行政として取組みを開始する旨明示されている。また、岐阜県としても会議を発足して、7月20日には県庁にて会議が行われる。取り組むべき課題として国も乗り出していることなので、対応策に向けて市でも前向きな対応が必要である。現在、郡上市では具体的な対策がすすんでいる。また、飛騨市でもふるさと納税を利用し、猫のシェルターが稼働中で崩壊現場などから多数を受け入れている。出遅れている市としても、具体的な動きが必要と感じている。

・アンケートがただのアンケートにならないよう、前にすすむとありがたい。

・人口減少や高齢者福祉、異常気象による防災など将来に多くの課題がある。市の将来は、今から市民みんなで考える必要があるが、市役所の負うところは非常に大きいと思う。期待している。

・アンケートに回答するのに、2時間ほど要した。アンケート内容をもう少し具体的にして、行政の反省点、問題点を熟考すると良いと思う。



高 山 市

まちづくりアンケート（団体）